付録

【ワークショップ 1 日目　ねりきりの解釈の共有】
話者 1 皆さん見た目について何か 1 人ずつ感じることとかはありますか？とよちゃんのやつに、思うこと、感じることとか、何かある?話者 2 何か器とか全て込みでトータルコーディネートが美しい。話者 2 確かに話者 2 芸術は爆発だ。を感じる話者 2 何か生物なんだろうな話者 2 何かサンゴっぽいのがついてるように見える話者 1 なるほどね話者 1 触手よりかと思って何か口っぽい感じがあって話者 1 はいはい。うん。話者 1 攻撃性なのか、話者 1 何か貝から何か出てる感じに確かに近いかも話者 1 ガードなのか攻撃なのかわかんないけど、生物的な攻撃性みたいなものをちょっと感じる。ある意味防御。話者 2 なるほどね。色みとかは？話者 1 海を感じる話者 1 やっぱり海っぽいけど、この下がどうなってるのかが気になる。青が表層だけに貼ってるのか、それともなんていうドッキングなのか話者 1 どうですか？話者 1 これは青が表層だけ覆い隠してるというかどんどん攻めていってる話者 2 わた私もそのイメージある。話者 2 青が攻めてる側なのか。話者 2 飲み込んでる側なのか。話者 1 そうですね話者 1 下は？話者 1 下は全部赤で上からかぶさってます話者 1 上からきてるんだ。なるほどね話者 1 えじゃあ、今飲み込まれそうなのかな。話者 1 そっちなんだ話者 2 私青がからとかこおらみたいな感じで、ピンクっていうか赤が生えてきてる感じに見えた話者 1 私はヤドカリさんみたいな感じなのかと思った話者 2 そうなるほどね。でもその流れ的には赤を作って、その上から青を合わせてるってことなのか。ちょっと後で味も込みで、皆さんまた言っていただきましょう。話者 2 次時岡さんに対してどうですか？話者 2 高級料亭や話者 2 高級かな！？話者 2 でも色みはとよちゃんのに近いけど受ける印象は結構違うよね。話者 2 混ぜたのは青なの？話者 1 青だけど、なんかはっきり発色させて内はず話者 2 ちょっと緑っぽくも見えるね。話者 1 中の物体がすごい気になる。なんかちょっと胎児みたいな感じがします。話者 1 渦巻いてるね。うにゅってしてる。なんかタコの足みたいなのなんかさ、巻き方してない？柔らかそう。話者 1 とよちゃんの方が激しい何かがある感じがするとか、時岡さんに対して何かこういう感じなのかなみたいのある？こっからわかることみたいな。話者 2 なんかもう蕾っぽさも感じる。開いたら中から出てきそう。話者 2 なるほどね。話者 2 さっき制作してとげとげたちがどこに行ったか非常に気になる話者 1 パサパサか話者 1 パサパサはどこに入れたんですか？話者 1 パサパサはその青いやつの内側に本当はみっちり張り巡らしたかっんだけど、潰れますねと思いながら作ってた。話者 1 そうですよね話者 1 じゃあ硬い物で作ったらそこはふぁさふぁさしてたんだ。話者 1 してた。話者 2 なるほどの内側ってことだよねなるほど。ではゆりちゃんのお願いします。話者 1 いやかわいい話者 2 かわいいかわいい話者 2 ミニは含めても含めなくてもいいっす。本当はミニ作る予定なかったから話者 1 でもなんか多分この混ざりきってない感じに意味はあるんだろうなと思う。話者 1 そうだね。確かに。2 人と

の違いはいろんな色が話者 1形じゃなくて色にこだわった話者 1なるほどそっかいろんな人だもんね話者 2形はね、なんかあんまりこだわるつもり最初からなかった話者 1そうなんだ目とかはそんなに実は意味ない？話者 2 目は一応さすがに意味はあるけど、形をこういうとがらせ方したいとかこういう感じにしたいはあんまなかった。むしろ何か丸っぽい方が私の、コンセプトには合ってる。話者 1 点々じゃないけど、まだらなのはあえて？話者 2 なんか色を混ぜたかっただけでその形状、色の混ぜ方の形状はすごくこだわりがあるわけではないかも話者 1最初の方に作った黄色はどこに行ったの？話者 2これがですね実はこの内側にいらっしゃいます。話者 2 じゃあ切ったら内側にいらっしゃるかもしれない？話者 2 ちょっとわかんない今どうなってるのか話者 2 それはわざと？話者 2 いや元々は黄色となんか赤系のグラデーションにするつもりだった。だけどちょっと色がイメージと違ったので後から付け足したんだけど、コンセプト的に内側に一層あるのは結果的には合ってたかも話者 1なんか明るい色のチョイスだね。話者 1そうですね話者 1黄色と赤ってさ、普通に綺麗な感じになるじゃん。話者 2 明るくて綺麗なかわいい感じの色のマーブルにしたかった。話者 2 例えば目がそれについてるのの、何か推理としてこういうことなのかなみたいなのはある？話者 2 どっちなんだろうって思って、なんか目の向きは意味がある？話者 2 この方向がってわけじゃないけど目に向きがあるのは意味がある。話者 1 これが何かそらしてるなのか、伺ってるなのかきになるね話者 2 いい視点ですね話者 1なんか普通じゃこっち向いててもいいじゃん。なんか真ん中か、ドラえもん的なさ、真ん中の位置にあればこっち向いてるのかなって思うけどこれだとちょっとえみたいなさ、キョトン感があるよね話者 2大事ですそこ大事です。話者 2これは切って見ることに意味があったりする？話者 2 あんまないかも。なんかあんこの形をできたらしようかと思ってたんだけどちょっと技術的に私が追い付かなそうなのでキャンセルしました。話者 2なるほど。では実食と行きますか

【ワークショップ1日目　実食とおすそ分け】

話者 1いいタイミングで一切れ切って、黒文字で自分で食べてみてください。話者 1おいしい話者 1 本当？なんか私とかやるともうさ、食べられない気持ちになってたんだけど、意外とみんなそうでもない？話者 1 食べられないなんで？話者 1 悩みが過ぎて話者 1 どっちかっていうと悩みってより食べ物で割り切っちゃうから食べられちゃうってもあるかもしれない話者 1なるほどね話者 1私は、何だろう、何かさっき過程の話をしたけど、過程のときにこだわりがあるわけよ。なんかこういう悩みだから、こうしますみたいな、それが最終的にどううまくいったかが今楽しみになっちゃった。切ったときに、それが表現できてるかしらとか味とかで、そのコンセプトが残ってるかしらの楽しみで全然食べたくなっちゃう 話者 1なるほどね。ワクワクの段階ってことかな 話者 1確かにそれもちょっとあるか。 話者 1 なるほどね。長期的に超デカかったら厳しいかもみたいなのはある？ 話者 1いやどうなんだろうでもなんか、作るぜって思うと結局そうなっちゃうかな。なるほどね、

楽しくなっちゃって。それはレイヤーが違う抽象度の具合の差かもしれない。 話者 1 それって自分は今食べ切っちゃう感じ？ 話者 1 や配りますなくなっちゃう前に。 話者 1 なるほどちょっとずつなのか、完全に 3 等分じゃないんだ 話者 1 上げたい分だけでいいので二切れ切り分けて、それをみんな自分の黒文字でちょっと自分のお皿に持ってくるみたいな感じでお願いします。 話者 1 最後に自分の分も残しといた方がいいかも 話者 1 カニバリズムを感じて悲しくなってる 話者 1 人なのそれ？ 話者 1 どうしようかなこのトゲトゲと、この 2 種のとこどっちも食べてほしいんですけど、細々になるか、それかもう諦めて、残りの部分を 2 人に切るかって感じなんですかで 話者 1 細々頑張ってみるか 話者 1 じゃあゆりちゃんのからいくか 話者 1 なんか普通に普通にっていうかめっちゃ綺麗なんだけど 話者 1 確かに。 話者 1 内側にうっすら黄色の層も見えるね、 話者 1 割と甘いかも 話者 1 さっきのさ外見からの印象に違いとかある？意外とすんなり？ 話者 1 いやなんか想像以上に甘いなって言う 話者 1 やっぱり美味しいな、なんか逆にこれが悩みであることに闇を感じるんだけど、 話者 1 どういうこと？ 話者 1 だってなんか見た目爽やかじゃん。とよちゃんのやつとか私のやつとかって、結構なんか、なんかあるでしょうねっていう感じがする気がするんだけど、ゆりちゃんはかわいいだけにかわいさにパッケージされた何かがあるのかなっておもっちゃった。 話者 1 けど、思ったよりも味とかも全然美味しい 話者 1 ではゆりちゃん、種明かしをお願いします。 話者 1 ここで解説タイムなのね。わが子をめでているばめでている場合ではなかった。結構しっかり何か解説込みで作ったんですよイメージを。割とと考えてた通りに作れたのでイメージのままなんだけど、まず目は言ってくれたので言うと後者で伺ってるの方です。したから、ちょっとみんなの様子をうかがってる感じの目でした。悩みを一言で言うと、自分の日常とかちょっとしたことをあまり周りに出さないようになってきたっていうのが悩みというか、私は自分の性格は社交的な方だと思ってたんですよ。今でも実際に初対面の人とも喋れるとか、そういうベクトルでは社交的なんだけど、すぐに自己開示していけるっていう意味ではそうじゃないかもしれないっていうのが、年々気づきまして、内側のあんこの部分は結構ほとんど見せない。でも外側はカラフルでこの人いろんな面を持ってるんだなっていうふうに見えてるっていう。それでも全部この人は私は自分のことを外に出してるんだなっていうふうに周りは捉えるけど実は、見せかけにいろんな面がある。本当の内側は実は見せてないっていう感じのイメージでしあた。解説としてはそんな感じかな。だから、色もちょっと明るくて親しみ安そうな色で、結構カラフルでこの人いろんな面あるんだっていう印象持ってもらうって形も丸みがあっていかにも害がなさそうで、みたいな感じです。はい、以上です。 話者 1 なるほど。その色のチョイスっていうかさ、黄色が内側にっていうのは、普通に混ぜ込み具合の問題？ 話者 1 元々はその黄色とピンク赤のマーブルしようと思ってたんだけど、単純に色みが好みじゃなくて外側に足してった結果、黄色が内側にはいっそう出来上がったんだけど結果的には外から見えないって意味では同じだた。結果的にね、 話者 1 その色チョイスは別に自分のテーマカラー的なっていうよりは、もうイメージとしての暖色だった感じ？ 話者 1 両

方があるかも。印象として、黄色とかピンクだとさ、明るいイメージもあるじゃん、私自分も好きな色というか自分のテーマカラーに近い色でもあるし、 話者 1 あんこの味をしょっぱいとかにしたのは外側の暖色とはちょっと違う見せての一面みたいな意味がある？ 話者 1 そうそう。思ったより結果的にはちょっと甘くなったんだけど、なんか完全にただのあんこだと、かわいいお菓子っていうイメージ通りのままだけどちょっと完全に違うわけじゃないんだけどちょっと違う部分もあるよっていうんで少しだけ味を変えたかった。ミニの方はもうちょっとしょっぱい 話者 1 なるほどね。ありがとうございます。よろしいですか。そしたら次に行きます時岡さんのを皆さん食べてみましょう。 話者 1 私はこれかこれがいいと思う。多分あんこ食べた方がいいので、 話者 1 なるほど。いただきます。 話者 1 すごい。あんこに色がついてるみたいに見えるね。 話者 1 どうですか？ 話者 1 あんこのインパクトが強い。 話者 1 何味ですか。 話者 1 わさびと、うん。あとさっきちょっと聞こえちゃったんですけど、梅？ 話者 1 酸っぱいと辛いか 話者 1 部分の違いかもしれない私だいぶわさび。梅はそんなにないちょっとぐらいかも 話者 1 結構インパクトの強い味がする？ 話者 1 なんか、予想を裏切られたというかなんか結構見た目から、なんかなんか結構シリアスな悩みなのかなと思って結構苦いとかそういうなのかなと思ったら、辛いだからもしかしたら怒りとかそういう感情なのかな思いました今、 話者 1 パッションを感じる味だった。 話者 1 そうですねぱっしょんそうですねパッション感じました。 話者 1 私は逆で、予想通りにの味。ちょっと梅の部分はあれだけどその色が外側を青って言ってたけどちょっと薄い緑っぽく見えるのね。内側ピンクだからそういう意味で梅とわさびって色的にはそんなにびっくりしないチョイスだったっていう印象かも。私は見た目のイメージともちょっとリンクしてる気がする。話者 1 では構造とともに解説をお願いします。話者 1 なんか胎児なんだよね。悩みとしては、なんか自分がめっちゃガキだっていうことが悩みで、 話者 1 へー 話者 1 ガキだよ。なんかさ、もう何かゼミで喋る度に何か己超未熟すぎて死にたいと思うの。なんか自分の甘さをすごい感じるし、うんなんか未熟だなって思う気持ちがすごくあったから、未熟さってやっぱ熟れてないところだから、酸っぱいみたいな、最初酸っぱいと甘いにしてたのは、何かその酸っぱさとあと自分が甘ちゃんすぎるから。なんならどういう感じでやるかわかんなかったんだけど、げろ甘にできるんだったらげろ甘にしたかったんだよね。なんだろうな、なんか体はげろあまで頭は酸っぱいとかにしようかなとか逆でもいいかなみたいな。感じにしようと思ってたけど結構美味しかったから、自分の中身の醜悪さというか、ちょっと攻撃性みたいなのを出したくって、カラーリングした。苦いだと、大人になっちゃうから大人じゃないんだあよなって思って。 話者 1 なるほどね。しかもコーヒー味ですもんね。 話者 1 じゃあ柚子胡椒よりもわさびを選んだのは、そのすごく攻撃性、どっちも割とつんとする系のやつでわさびか、胡椒って書いてあって多分唐辛子なんだけど、系のからさのなかでわざとあのわさびを選んだ理由は何。 話者 1 好みもあるんだけどちょっと、でもやっぱ何か刺激物って感じがわさびの方があって、毒物感？なんかなるべく不健康そうにしたかった。なんか美味しくなく、胎児なんだけど、かわいい胎児

じゃなくて、これ青い部分は羊水のイメージなんだけど、何か甘いねりきで培養されし甘ちゃんみたいなイメージだった 話者 1 どっちが酸っぱいにしたかったの味としてはどの部分が 話者 1 でも普通味付けしたかったのは、中の胎児ちゃんだけ。 話者 1 胎児ちゃんはあんこなのそれとも赤い練り切り部分なの 話者 1 全部全部その赤入り切りの中にあんこがあって、それが最初胎児の形を作ってたんですよ。顔と体とそれも一応なんか頭と体を分離して作ったのには意味があって、なんか、自分に萎えちゃうと、すごい自分の首ねじ切って投げ飛ばしたいという気持ちになるんだけど、何か頭と体をひねって頭を投げるぐらいのじばつて的な気持ちが生まれるし私本当は何かその羊水だからめっちゃ丸めての中に入れ込みたかったんだけど、見えなくなっちゃうなって思いました。だけどでも何かもしこれで丸目って中身見えないでも成立する形があるんだったら丸め込みたかったし、よく自分をぐちゃぐちゃっと丸めて捨てたいみたいな気持ちになるからそういうのを作ってる過程で味わえたらいいなと思ったんですけど、なんかちょっと練り切りがあまりにも柔らかく全てが融合そうだったから、それはできなかったねって感じ。 話者 1 でもなんか羊水で育てられてる段階っていうさ自己認識がすごい面白かった。個人的にそれって成長の見込みはあるってことじゃん 話者 1 いやよどんだ用水の概要だから。 話者 1 あその淡い感じなどがそのイメージにマッチングするよう水の色が。 話者 1 胎児も綺麗なピンクになっちゃうと良くないから黒を混ぜて、何か腐りつつあるのだという感じ。 話者 1 味とか見た目とかは割と満足いった？ 話者 1 でもなんか美味しいなと思って私はもっと汚いなって思って、 話者 1 そう言われて食べてみてそうだったねね 話者 1 でも形で言うとさっきもちょっと言ったけど、蕾っぽくさ全部詰めなかったことによって蕾っぽくなったから、結果的にた胎児は可能性あるって萌ちゃん言ってたけど私も開花の可能性を感じた 話者 1 酸味なのって売れる前だからさ、売れていくのかなみたいな。 話者 1 うん確かに売れたよみたいっていうのはあるのかも 話者 1 腐り終わる感じのエネルギーは受け取らなかった。 話者 1 じゃあ、とよちゃんのに行きますか。 話者 1 はい。食べてほしい部位的にうすうすになっちゃった 話者 1 すごいよくできてる。よく切れてる 話者 1 横から見てもめちゃくちゃ綺麗。 話者 1 しかも意外と青の層厚かった。 話者 1 色がどっちもはっきりしててコントラストが素敵。 話者 1 何味ですか？ 話者 1 山椒を初にお目に掛かります。 話者 1 柚子胡椒ね 話者 1 失礼しました。 話者 1 最も意外性を感じる。 話者 1 というのは？ 話者 1 見た目はトゲトゲしてるって意味では確かに予想通りとも言えるけど、コントラストしっかり綺麗でこのままアートとして完成感のあるところからびっくりな味が出てくるのねっていう 話者 1 でも見た目はもう割と攻撃性があるみたいな話がさっきあったと思うから、そこは意外とマッチしてる感じなのかな。 話者 1 そうね。そうかも。うん、 話者 1 時岡さんはどうですか 話者 1 私は逆に自分はパンチ効かせたいと思って辛いを入れたから、そういう感じなのかなと思って納得感はある。 話者 1 なるほどね。割と想像見た目と中身のギャップはなかった。なでもなんか意外と青厚いんだなんだなっていうのが断面の ks ん層としてある。なんかもっと表層なのかと思った。それはでも OK なの？ 話者 1 ちょっとい

意意に反してる 話者 1 もっと包みたかった？ 話者 1 なんか、こんなに厚くするつもりじゃなかったんです膜みたいなイメージそうですね覆い隠すみたいな感じです 話者 1 なるほどなるほど。ちょっと種明かしをお願いします。 話者 1 これに何を表現したかったのかっていうのが、そのおねちゃんとの関係性というか、3 個上におねちゃんいるんですけど、昔めっちゃ仲悪くて、何か理不尽なことで殴られたり蹴られたりするのは当たり前だったから、自分も嫌だったんでおめえちゃんの顔にビンタしたりとか、バイオレンスですごい仲悪かったんです。でもなんか最近、3 ヶ月前ちょうど 3 ヶ月前にお姉ちゃんが 1 人暮らし始めて、なんか結構その距離も離れたら、何かおねちゃんが急に優しくなったというか、何かその前まではなんか一人暮らししてもお前絶対呼ばないからみたいな感じだったのに、なんか、いつ来てくれるのみたいな、ウェルカムなんだけどみたいな、なんかえみたいな感じになって、でもその個人的にはやっぱりおねちゃんと仲悪かった記憶の方が多いから、なんか許したくないっていう気持ちの方が大きくて、でもやっぱりやっぱり今までずっと仲悪かったから、そうやって歩み寄ってくれることがすごい嬉しいところもちょっとだけあって、だからちょっとその怒りのトゲトゲの部分に、ちょっと許したい感情というか、 話者 1 和解が迫り来てる感じのなるほどね。とんでとんでもなく納得した。 話者 1 っていうのを表現したくて。中身のあんこは、その柚子胡椒と、あと甘いあんこを使ったんですけど、その柚子胡椒は結構イメージの通り怒ってる気持ちというか、結構バチバチして、何か爆発的な何か怒りを感情で、でもその甘いのを入れたのが、やっぱりちょっと許したい感情が芽生えつつあってちょっと自分の心の中でぐるぐるしちゃってる 話者 1 だから混ぜたの？ 話者 1 そうなんです。ていうのを表現したかったっていうのが一応一通りの説明になります 話者 1 なるほど。赤と青ですあんこの味 2 個分けてもいいのかなって途中まで思ったからだから混ぜてるのねと思った。 話者 1 うん。でも混ぜ切っちゃうとさ、柚子胡椒の味がただ薄くなるだけな感じをするからマーブル状に混ぜて、すごい味が濃いところもあるし、すごい甘いところもあるみたいな感じにするのもありかもね 話者 1 確かに自分の気分のむら的にも何かいや絶対まだ許さないからっていうときもあればなんかもういいなみたいな時もあるので。 話者 1 怒りが薄れてる感じではないんだ 話者 1 そうなんですよ、結構時によりみたいな 話者 1 拮抗するするみたいな感じなのかなとげと冷静さみたいなのは。話者 1 青色なのは、意味があるの？ 話者 1 何か青色なのは普通に心の平静というのが一応自分の中で＝青だし自分の好きな色が青だからちょっと好きになりかけてるみたいな表現を青色で表現したかったってのもあるかな。 話者 1 なんか質感とかは結構そのトゲトゲしい部分と、結構すごいなでてツルツルにしようとしてたから、 話者 1 トゲトゲの部分はもうマジで怒りなんで、もう結構途中まで結構ボコボコにしようとしたりとかここもちょっとツルツルになっちゃったんですけど、本当は何かザラメとかでもっとなんかザラザラ感を出したくて、このツルツルのところはやっぱり許したい気持ちというか心の穏やかな感じを表現したかったからもう水に浸かってめっちゃつるつる。 話者 1 なるほどね。ザラメとかいいね追加素材を OK にした方がいいかな。要相談 OK にしようかな。なるほど、

何かお２人それを食べてみての感想とかあれば、 話者 １でもなんか相手がいるやつだとは思わなかった。それはそのお菓子からじゃなくてさ、普通に人となり的に勝手に偏見があっただけか。でもある意味自分と悩みなんだと思う。 話者 １そうだね。なんかこれってすごい難しくて、自分で食べるから最終的に自分の悩みだったらすごい合理的なんだけど、なんかすごいあいつが嫌いみたいな悩みを自分だけが食べるのってちょっと腑に落ちないみたいなのがあるからみんな自己の悩みにしがち。なのかなって中での対人関係だったから、どうなるのかなと思ってたけど、話を聞く中ででも意外ととよちゃんの中で困ってる気持ちにフォーカスしてるのかなって思ったから今すごい納得した 話者 １ 自分の中のせめぎ合いだもんね 話者 １そうなんですね。 話者 １対人関係の中の自分をフォーカスっていう面白さがあるなと思いました。 話者 １なんかそれ言ったらさ私一人っ子なんだけどさ、から実際ね、友達とは違うわけじゃねじゃんって結局親族だから、最終的にどっかで和解した方がいいのかなみたい気持ちもあるから余計せめぎ合うと思うんだけど、なんか疑似体験させてもらった気分になった。 話者 １食べることによってってことですか？ 話者 １なんか例えばだけどさ、私からさえちゃんの悩みは、うん、あの個人の悩みだからさ、共感する可能性がある悩みじゃん。とよちゃんの場合は、お姉ちゃんがいないから共感のしようがない100%共感は最初から無理ってわかってる悩みなのよ。だから、何だろう。その気持ちがわかるようになったとかではないんだけど、こういう感じなんだなっていう体験をさせてもらった気分。 話者 １それは話を聞くよりも、食べたってことに違いがあったりはする。 話者 １ 聞いただけじゃそうなんだで終わると思う 話者 １ より深い体験になってるってこと？ 話者 １うん。その感情こういう、こういう味覚として捉えてるんだなっていう、見た目ってよりかは、見た目もあるか、味覚の部分が大きいか。話者 １でもそれはあるかもね。なんかさ、説明を聞くとそういうのあるよねとかって思っちゃう 話者 １そうそう共感した気分になっちゃう。 話者 １そうそうでも何か食べるてそれを受けて解釈みたいな感じで考えると、なんかね、想像の余地がいつもと違う方に広がる感じが面白いね。 話者 １味わいからの想像っていうのが、何て言うの。より共感、感覚的に共感するっていうか、 話者 １何か解釈しようと思うから。深読みしたがる性格が下にあるだけかもだけど。 話者 １あとは自分のなのでお好きなタイミングで召し上がってください。食べきれなかったらこのケースに入れて持ち帰れます。

【ワークショップ２日目　ねりきりの解釈の共有】

話者 １なんか見た目からこんなことを感じるとか言って欲しい。まずはＤさんの方のからいきましょう。 話者 ２明らかに悩みだよね。 話者 ２悩んでるよね 話者 １他の感情である余地がない気がする。明らかに悩みというか、少なくとも負の感情だろうなみたいな。 話者 １でも顔の表情とか 話者 １ほんとだ顔は穏やかだった。話者 １その悩みっぽいのは形状？色？何から？ 話者 １ 色でしょうね。色とやっぱ人がぐでんってなってるところ。 話者 １ なるほどね確かに。 話者 ２ 確かに顔見ると穏やかだから、でもなんか和やかさでは

なくない？ 話者 1 なるほどね。和やかさではない。 話者 1 何だろうね。 話者 3 なんかすごいその下のまあるいところがすごいマーブルでいろんなカオスに後ろからおされるみたいな。 話者 1 なるほど。確かに、 話者 3 またはそのカオスの上にいるしかない自分。みたいな。ふうに見えた。でも顔はおだやかなんだよね 話者 3 そう。私も脱力してるというか力を吸われてるかなって思ったけど顔が穏やかだから、受け入れてんのかなという気持ちもあるよ。話者 3 確かに確かにすんごい脱力してるね。穏やかにめっちゃ脱力してる。話者 3 でもなんか、下のカオスの色みがちょっと和ぽくていい 話者 1 これでさ、味がすごいさ、パンチの効いた柚子胡椒とかだったらすごい悩んでるみたいな。 話者 2 なんかキッツってなるなる 話者 1 味次第でまた面白いと思う。話者 2 これで味がうまかったらさ、和やかな顔なのもわかる 話者 1 実は受け入れてんじゃねみたいな。 話者 2 でも多分、制作中の感じでは刺激的そうな味だったから、これで結構パンチの効いた味だったらなんか、こっちもちょっと食らうかもね。 話者 1 確かに確かに、 話者 3 何かその形状だとどこから食べるかで、何か悩みの場所が違いそう。頭からとか足から食べるとかで、 話者 1 なるほどね D さんが一番どこを食べるかみたいなね 話者 3 心臓を食べるかも知れない 話者 1D さんどっから食べる？ 話者 1 どっからかな。下の部分からかな。体を残す。 話者 2 えー、なるほど！！丸い部分からなのか 話者 1 新たなる選択肢だね。なるほど。じゃあ次 E さんのはどうですか？ 話者 1 これは本？ 話者 1 何かに見えるよね、 話者 3 最初お寿司を作ってるのかとおもった 話者 3 私も作っててお寿司になっちゃうんじゃないかと思った 話者 1 このぶよぶよしてるのが、わざとならめっちゃなんか悩んでそう。 話者 1 確かに質感がね 話者 3 なんか水に入った後の本みたい 話者 1 あとなんか、こんなに広いスペースのお皿なのに、端に置かれてるのにも意味がありそう 話者 1 本に見えるよね。 話者 1 うん。本に見える 話者 1 色みとかは？ 話者 1 ね 2 色ある。赤と青。 話者 1 結構しっかりとした色を付けてるね 話者 1 あんまり本では見られないようないろじゃない？茶色とかじゃないんだみたいな気持ちもある。 話者 3 でも逆に中の餡はほとんど元のやつまんまだから、中の悩みっていうよりは、悩みの外側が強いのかな？悩みの中で。そう見えた。話者 1 なんか名推理っぽい感じの予感。わかんないけど。 話者 1 でも中の餡が何味かとかもあるよね？ 話者 1 確かにこれ 1 冊ずつ違うのかとか気になるわ。 話者 1 もう冊って言っちゃってるじゃん 話者 1 本なのかなって私の中で思っちゃった。 話者 3 味違うんだとしたら何か食べ方の順番とかありそう 話者 1 確かに。てか上下に積んでるのとかもね 話者 3 ね、上下のこの順番だったら絶対赤から食べさせるって感じだよね、 話者 3 確かに確かに。 話者 3 本じゃないとしたら何かこの周りの色が、全面を覆ってないのは何か意味があるかなとか、 話者 3 確かに本じゃないとしたら、閉じてない悩みなのかな。 話者 1 何かに侵食されてるとかね、覆いかぶされてるとか。なるほどね。食べる順番って面白い。話者 2 どこにどんな味か忘れちゃった 話者 2 次 F さんの 話者 2 でもなんかね、悩みであるっていうことはわかる形状なんだけど、他者からするとちょっとかわいらしさも感じるというか、なんか生き物っぽく見えるよね、 話者 2 海の生き物っぽいよね。 話者 2 それ

こそさ、海っぽさとかさ、ハリネズミっぽさとかもあって、 話者 1 ウミウシみたい 話者 2 確かに 話者 2 下に本体みたいな部分があるからそう見えるんだろうね。でもとげではあるしね。 話者 2 あと練り切りの性質上さ結構馴染むからさとげと本体っていうより、本体とトゲのなじみ方がすごいから、そこに生き物っぽさを感じる。 話者 2 うん。グラデーションがね、灰色と白の。 話者 2 でもなんか、あえて本体に色をつけなかったのはなぜだろう？ 話者 2 これ誰のとげなんだろうね。自分の中から発生してるのかさ外に存在してるとげなのかさ。 話者 2 確かに 話者 2 何か発生してしまった感があるよね。本体の色が白だから。 話者 2 確かに 話者 2 なるほどね、通常の状態の白異常なものが出ちゃったみたいな？ 話者 2 自分のものだったら本体と同じ色になるのかなっていう気持ちがちょっとある 話者 2 なるほどね。灰色にも何か邪悪さを感じる 話者 2 でも真っ黒にしなかったんだなっていう気持ちもある。 話者 2 あとなんかさ刺激という意味では他の色の原色でも刺激ではあるじゃん。それが何か黒なのが、なんかね、単なる刺激というよりはちょっと暗さダークさ的なものを感じる 話者 2 なるほどね。 話者 2 なんか、黒ってやっぱ全部の色を混ぜたときにできる、灰色もだけど、そういう色だから何かそのとげの性質的にあんまり、分節化されてないっていうか、ごちゃっとなったままとげに出てきてるんかなみたいな。 話者 2 なるほどDさんのマーブルもカオスだったけど、これはそれが全部混ざったカオスみたいな？ 話者 2 何か澱みみたいなイメージかも。 話者 1 面白い面白い。どうする皆さん本人も何か言っとく？でもネタバレになっちゃうか。 話者 2 今思ったのは、人に言われた解釈が良くて、そういうことにｓｈにしとこうと思った 話者 1 そういう事にしとこ 話者 1 みんな深掘りしてるからね 話者 1 そんなつもりなかったけど、でも本質を突いてる気がするから、そういう意図だったってことにしとこうって思った。 話者 1 すごい。アイディアをもらっちゃうみたいな？食べますか。

【ワークショップ２日目　実食とおすそ分け】

話者 1 どう食べてみて 話者 1 うまい 話者 1 思ったような味だった？ 話者 2 なんか私、あんこの味見せず始めちゃったから、後であんこ食べたときに、これやばいかなって、なんか濃すぎるかな刺激って思ったけど、うまいことなってるわ。 話者 1 うん。周りの多分白あんで緩和されている 話者 1 あんこの味を混ぜた人だっけ？ 話者 2 混ぜたというか、ぐるぐる混ぜたわけじゃなくて、マーブル状にして置いてある 話者 2 なるほどね。 話者 2 食べる場所で味が変わるはず。 話者 1F さんは食べました？ 話者 3 食べました。なんかこいつとトゲトゲしてるんだけど、食べるときにとげが口に先に当たるのね。何かそれを咀嚼することでトゲが取れて感じがある。 話者 2 いいね。 話者 2 すごい単品でなんか食べてる人いるじゃん 話者 2 酸っぱい味してるかなと思って。入れたけど 話者 2 なるほど。じゃあおすそ分けするか。切ったら自分のもう取っちゃうかな。切り分けるまでは、自分でやってあげて 話者 2 バターナイフできると上手に切れます。 話者 1 胴体キレた。 話者 13 等分されてる 話者 1 自分の分残しといてもいいよ 話者 3 生き物殺してるみたい 話者

1 何か捌いてるねそれは 話者 3 いや、なんかごめんって 話者 1 なんか切るのいいなこれ。話者 1 悩みなのに愛着湧いてるじゃん。捌いてる 話者 3 確かに。 話者 2 生き物として捉えてるんだ。 話者 1 前回、Bさんが自分の作った悩みをペットって言っててさ、 話者 2 やばいやばいね。 話者 1 そしたらみんな自分のでもらっちゃおう。これはこの 2 人に？ 話者 1 そう！他の参加者に！ 話者 22 色食べて、2 色っていうか 2 パーツ以上食べてほしい。 話者 2 いただきます。だんめんかわいい 話者 3 顔いただきます 話者 2 頭だ。頭蓋 話者 1 まずDさんのから行きましょう 話者 3 苦いというか、コーヒーなのね。 話者 1 ふうん。なるほどね。 話者 2 この中に酸っぱいはあるのかな？ 話者 3 普通に美味しかった 話者 3 さっきの脱力してて顔は穏やかだよねとは結構マッチしてる味わいだった？ 話者 2 刺激って感じじゃないという点では、割とそう。ていうかドンっていう痛みとか刺激っていうような感じというよりは、モワッとした感じ。鈍さというかこのマーブルの色みのイメージ。 話者 1 うん。 話者 2 味もだから、苦いとか酸っぱいって、酸っぱいは刺激よりかもしんないけど、刺激のさ水があったらその下の方によどんでるタイプの刺激の気がするのよ。 話者 2 なるほどね。 話者 2 だからがんという痛みというよりは、鈍い感情というか、何とも言えない感覚っていうイメージかな。 話者 3 なんか、食べてみて味からなんだけど、見た目が結構上の灰色の体と、結構カオスって思って見てたんだけど、なんか味はそんなパンチがなかったなって思って、何か側の印象よりも、何か悩みとしては結構均一な悩みな気がした。味からは。あと頭を食べたんだけどすごい今、抵抗感が強かった。 話者 2 あれは何なんだろうね、イメージの中のDさんの頭なのか、また別の人の形をしてる何かなのか。 話者 2 人間としてのね 話者 3 しかも和やかな顔を食べるってところにすごい抵抗感 話者 1 いやあ、深い 話者 3 なるほどね。和やかな顔で苦いの結構怖いよね。 話者 3 なんかもっと辛いとかパンチのある感じなのかなと思ってたんだけど、練り切りの甘さもあって苦くて甘いんだ、この悩みはっていう。なんか印象と違かった。見た目の自分が思い描いてた印象とちょっと違うなって思った。 話者 2 なんか鈍だった。鈍痛の鈍鈍 話者 1 それ近いかも。鈍い。鈍く響くみたいな。 話者 1 瞬時の何か 1 個の出来事の痛みっていうよりは、継続的だったり？ 話者 1 何か置いておくことで膨れ上がってきちゃうタイプのモヤモヤそのものな感じする。 話者 1 なるほどね。面白い。 話者 1 種明かししてみる？ 話者 3 全然違かったラおもしろい 話者 1 悩みはついダラダラしてしまう。話者 1 確かに当たってる 話者 1 めっちゃ鈍だね。 話者 1 鈍そのものだしねだらだらって。 話者 3 何かあんこの苦さはダラダラして 1 日過ごした後って何か苦い顔になるから。話者 2 こんな感じで 1 日を消費してしまったってね 話者 1 中の酸っぱいはもうちょっと目を覚まさせたかったんやけど、あんこ味見してからやればよかったなと思って、もうちょっとなんか目が覚める味とか、目が覚める量を入れればよかったなって思います。 話者 1 穏やかな顔なのは、それはダラダラしてる瞬間のDさんの表現ってこと？ 話者 1 おうち大好きやから、布団もめっちゃ好きやし、なんか布団でテレビ見てるときとか最高すぎて、 話者 1 だらだらしてきもちよくなってるところなんだ。 話者 3 なるほどね。 話者 1 だらだらの瞬間って

悪くないもんね 話者 2 でもだっらだらの瞬間も思ってんねん。ダラダラしててはいけないだろう、課題もやってないようになにだらだらしてんねんみたいな。そういう気持ちもありつつ、でも、目先のダラダラな良さを感じている顔です 話者 2 外側はDさんの部屋のイメージのカラーと、ダラダラDさんが乗ってて、中にちょっとその瞬間思ってる苦味みたいなのを詰めたっていう感じ？ 話者 2 うん感情。 話者 2 その本当にダラダラしてるときのDさんをそのまま作りましたみたいな？ 話者 2 なんかヨギボーみたいな 話者 2 なるほどね 話者 3 側のさ結構カラフルなやつは何からきてるの？ 話者 1 これ家にある、なんかオレンジのちっちゃいカーペットとか紫の敷物とか結構あるから黒いものもいっぱいあるから、緑もあったんねんけど、それを部屋の要素、いろんな要素を全部いれた。話者 3 なるほど、話者 1 部屋の中のものは結構安心感が全体的にあるから、それをこのクッション的な感じにして。 話者 1 なるほどね。 話者 3 なるほど。ごめんなさい。カオスなんて言って。 話者 2 結構ではある。 話者 2 なるほどじゃあ次、Eさんに行きますか 話者 22 種類っていうわけではないんだけど 2 パーツ食べてほしいです。 話者 3 いただきます 話者 1 ふうん。 話者 1 赤は柚子胡椒かな。美味しい。 話者 2 結構美味しいよね。 話者 1 あんなに美味しくなさそうとか言ってたけど、味は美味しい？ 話者 2 認知の問題もあるんだよね。私、クマちゃんケーキ普通にまっぷたつにできるタイプだから。話者 1 それは私もできる。ピオリンとかも頭を二つに割れる。 話者 1 ウサギの形のチョコとかもかわいいってめっちゃやるけど首からいってみんなに見せて回る 話者 1 私耳折っていくタイプ 話者 2 どう？ 話者 3 味が違う？ 話者 1 味違った？ 話者 1 うん 話者 1 え、何があったっけ 話者 2 めっちゃ使った 話者 3 味違うんだけど、なんかよくわからん 話者 1 どう違うか分かんない。なんか青の方が味がすごい強い。話者 1 尖ってた？ 話者 1 うん 話者 1 赤い方は？ 話者 1 赤い方もまあまあし、柚子胡椒の刺激。 話者 2 柚子胡椒は認知して、それより刺激的な何かがあった？ 話者 2 うん青に。 話者 2 へー何だろうわさびとかかな？ 話者 2 うそ！逆に青、苦かったんだけど。話者 1 あれ食べる順番かな。話者 1 遅延性柚子胡椒来てる？ 話者 2 柚子胡椒って結構すぐ来ない？ 話者 3 もう味覚が馬鹿になってるかも。食べ過ぎたから。 話者 1 思ったよりはっきりパキッとした時だった？ 話者 1 うん。悩みの輪郭は結構ある。 話者 1 結構あんこの量少ないからそんなにせいへんかなと思ったけど、結構味がする刺激の、 話者 1 うん。 話者 3 何か悩みの輪郭が結構あって、それを青とか赤ので覆い隠したいんだけど、なんか全部隠れてないから誰かには喋りたいのかなって感じた。 話者 3 全然違ったらごめん。 話者 2 違う。いや自分考えてる。どうなんだろう自分って。 話者 1 なるほどね。 話者 3 いやなんか本の形状だったじゃん。 話者 1 本っぽいね。 話者 1 それが本だとしたら、開いてはないんだけど、開いててもよさそうなんだけど開いてない。から、閉じてはおきたいけど誰かに読んでもらう。悩みを見てもらうのは受け入れてんのかなみたいな。見た目的には。で味は結構、輪郭がはっきりしてたかな。 話者 1 はいはい。じゃDさんの悩みみたいな鈍痛っていう感じじゃなくて？ 話者 3 なんか結構、なんか、しっかり輪郭がある悩みな気がする 話者 3 アクティブ 話者 3 なんか二個の味の違い

が何なんだろうって思ってる。話者 3 確かにそれをまとめて 1 個の悩みとしてるわけだもんね。なんだろうね。 話者 3 そっか二つで一つか 話者 1 うん。いろんな側面とか、こういうふうにも思うし、こういうふうに思うみたいな？ 話者 1 片方自分片方他者説ない？ 話者 1 なるほどね。そしたらさ、上にあったのが自分なのかな、 話者 1 どっちやろ。 話者 3 あれ、赤と青ってどっちが上だった。 話者 1 赤 話者 3 両方食べてもらうっていうところに意味がありそう。 話者 3 確かに 話者 3 ネタバレしますか？ 話者 3 実際本です。何か悩みの内容としては、精神的にも物理的にも片付けが本当に本当にできなくて、物理的には多分わかると思うんだけど部屋が本当に片付けられないの。部屋以外もだけど。で、精神的にも、いろんな課題だったりとかあれやんなきゃいけないこれやんなきゃいけないとか、いろいろタスクをしょってたり、あとあれも考えておかなきゃいけなかった気がするなみたいなことがいっぱいあるんだけど、1 個をまず片づけてから次に行くっていうことができなくて。実際、マルチタスク型とか全部並行してやる方が自分には向いてるって思いつつも、でも何か常に何か抱えてはいる状態なわけ。 話者 1 なるほどね。 話者 2 私はそれで別にいいと、部屋も片付いてない派でいいと基本的には思ってるんだけど、定期的に他者に指摘されるわけよ。 話者 1 片付いてなくないみたいな。 話者 2 そろそろこれはさすがに片づけた方がいいよって彼氏とか友達から言われると、確かにこの状態が良くないことは私も知ってる。別に自分は嫌じゃないというだけで。 話者 1 なるほど 話者 2 たまに本当に物が見つからなくて、さすがにやんなきゃなとかなるんだけど、私にとっては片付いてない状態よりも片付けをしなきゃいけないことの方がめちゃめちゃ苦痛だから、ただ、わかってはいる、良くないっていうのが、これが。だから自分としては悩んでないんだけど、1 回 1 個フィルターとか他者というかを挟むと良くないなこれっていう 話者 1 なるほど、一般論に立ち返っちゃうと、それが悩みになるってことか 話者 2 そう。だから味を場所によって変えたの。それが部屋で散らかってるっていうイメージと、自分の中身としてもあっちこっちにタスクがありすぎて何をやんなきゃいけないんだっけが常に本当はわかんない状態で、でも何となく進んでるから、なんか理路整然としたわけではないがこの状態もよくないよなっていう状態で。本 2 冊はもう散らかってる感じと 2 が複数だよっていう。 話者 2 なるほどね。 話者 2 なんかもう本当にこのシートを書くときにどうしようかなって思ったんだけど、卒論期間中だから、周りに本めっちゃ包んであったりダンボールの中にガサッて入ってたりして、良くないなって思って、本は知識とかいう意味もあるから精神的な部分もやれるかなと思って本にしたって感じ。 話者 1 なるほどね。味を、その場所によって変えたのは 1 冊の本の中で？ 話者 21 冊の本の中でも変えたし、1 冊目と 2 冊目で違うから 2 人が全然違う味だった。 話者 2 だから多分食べた場所を 2 人全然違うから味が違うよをやりたかった。散らかってるし、刺激的な味だよね、まとまりもないしっていうイメージかな。 話者 1 だからちょうど見事に 2 人で別の場所をひきあてた。話者 2 ワンチャン 2 人とも、1 回目も 2 回目も同じ味になってしまう可能性もゼロではなかったんだけど、うまいこといったね。 話者 3 色は何なの？ 話者 2 なんか原色の方がよりごちゃごちゃして見えるかな

と思って、 話者 3 青と赤とかには何か潜在的な意味づけがないの？ 話者 2 でもなんか原色の中で一番代表的な色かなと思って。ガンガンてある感じ。 話者 3 うん。 話者 1 なるほど 話者 1 散らかってるって私のイメージがと重なりもあんまないっていうか、ばんばんって置いてある感じなのかなと思ったら、 話者 1 私積んじゃうんだよね。 話者 1 なるほどね。 話者 2 私、高校時代机の上がすぐこれぐらいいろんな教材が積み上がったことあって、積んじゃうタイプだから私の散らかりは縦 話者 3 あと 1 個気になったんだけど散らかりなのになんで端っこに置いたの？ 話者 21 ヶ所だけ切り取っても散らかってるからこれ以外の場所も散らかってるよっていう気持ち。真ん中にドンってあったらそれがメインの悩みというかそれがメインぽいけど、もうこれがもう全て不変なの。 話者 2 氷山の一角みたいなね 話者 2 そんな気持ち 話者 1 そこにフォーカスがとってるだけでってことか。そのお皿を部屋っぽくしてはじに散らかりを持ってきたとかではなくて？ 話者 2 その気持ちかな。なんか、それこそ真ん中の道は通れるようにある程度片付けてるわけ。片付けてるとか、獣道というか、通るからそこは道で、それ以外の場所に積み上がっていく。 話者 1 なるほど。1 人だけお皿が四角くてちょっと部屋っぽいなって思った。 話者 2 確かに、もっと大きいお皿でも良かったんだけど、ポツンと感が出ちゃうかなと思って。 話者 2 なるほど。ありがとうございます。面白い 話者 1 面白い 話者 1 意外と 2 人とも今んとこ当たってるね。 話者 2 ね何か方向性としてはあってるよね 話者 2 意外とわかるんだね 話者 2 次最後 F さんの食べてみましょう 話者 32 切れぐらいとって 話者 3 トゲトゲや、 話者 1 なんかさ自分の悩みってさ、食べにくいとかない？私なんか他人にいっぱいあげようって思っちゃう。 話者 2 めっちゃコーヒー。苦いんだろうな 話者 1 普通に和菓子だから味として美味しいんだよね。 話者 1 うん。このトゲがさ、トゲ普通に白あんやからさ、甘いからなんかかわいいよねこんなとがってるのに 話者 1 確かにとげ味つけてないの？ 話者 1 とげは味付けてない。 話者 1 それは意識的に？ 話者 3 苦くないの。とげは。 話者 2 わざとなんや 話者 2 それすごい気になる。なんでなんだろう 話者 3 土台の方が苦い。後ろの穴けつけつだけコーヒー 話者 2 でもトゲってさ、攻撃的なイメージだけどさ、味もそんなに攻撃的じゃなくて、味ついてるのも、っていうか意識的に入れてるのも土台の部分だけだから 話者 1 うん。 話者 1 見た目とちょっと違うのかもしれない 話者 1 さっきの想像より違う悩みっぽいってこと？ 話者 1 うん。 話者 1 どんな？ 話者 2 何か、攻撃のためのトゲというよりは、でてきちゃってるもの。顕在化したものの形がトゲだったみたいな印象を受けたかな。なんかベースの方に苦味があるわけだから、問題はトゲがあることというよりもベースの方で、その問題の発露としてのトゲみたいな。 話者 1 うん。 話者 1 とげわざと甘いってこと？とげじゃないってこと？ 話者 2 逆に？自分を守るものとか？例えば。 話者 2 触手とか 話者 2 かわいい 話者 2 確かに守るものだったら、めっちゃ辛いとかでもいいと思う。 話者 2 相手を攻撃するってこと？ 話者 2 でも、見せかけのトゲだとしたら確かに甘くて柔らかいかもなとか。 話者 1 擬態的なね、 話者 1 うん。 話者 2 なんだろうね人からのトゲというよりはやっぱり自分から出ちゃってるとげの方が印象とし

てはぽいかも 話者 2 味は一種類かな？ 話者 3 一種類。 話者 3 確かにカオス的な感じはないんだね 話者 31 個明確な悩みというか、そこから発生しちゃってるみたいな。 話者 3 悩みの質としてはさ、柚子胡椒とかにしてないってことは結構鈍痛っていうか、 話者 2 モヤモヤ感だよねこれも、どんの感じ。でも E さんのやつの方が何か鈍い印象は受けた。だから、何か何となくこう行動しちゃうというよりは、ダラダラしちゃうよりは明確に何かあるかもな 話者 1 悩みって感じか。聞いてみますか？種明かしお願いします。 話者 3 自分ってすごいなんかしらのタスク常に持ち続けてないと不安になっちゃうんですよね。すごいフラストレーションが溜まってしまうっていうところが、今一番の悩みで、そのとげが甘いのは、何か自分から出たそわそわとか不安とかが、さっき言ってた発露しちゃうっていうのがすごいしっくり。解釈一致だった。自分のそのモヤモヤみたいなところのイメージが発露したのがとげであって、 話者 1 うん 話者 1 悩みの輪郭がとげ。でもそのトゲに意識がいってほしいんじゃなくて、何かもっと根底にある、どんどんタスクを抱え込まないと、何かそわそわしちゃう自分ってところが、コーヒーの苦味みたいな感じ。あとけつの部分が、この部分は灰色なんだけどこっちはコーヒー入ってて、 話者 2 ホントだ気付かなかった 話者 3 そっちのなんか土台の部分からもしっかりずっと、苦味が続いてるっていう、悩みが続いてるみたいな。 話者 1 へえ。 話者 1 なんかイライラ解決する、ソワソワ解決すれば済む話じゃなくて、その根底の部分から解決しないと？ 話者 2 自分の気質だもんね 話者 3 多分これ悩みを解決するっていうよりは、向き合って行った方がいいのかなって思ってて、だからこのとげは何か自分を守るっていう感じのとげでもあるのかな。だけど他者は攻撃したくないから、甘いまんまみたいな 話者 3 なるほど 話者 3 その攻撃のためのとげじゃないっていうのは、すごいそうって思った。 話者 2 自分の保護のためのとげ？ 話者 3 そうそうなんか自分、これ、これあるから嫌っていう。 話者 2 これハリネズミと一緒だね。彼らも攻撃はしない 話者 3 このタスクいっぱい持ってるからやめてっていうかんじ。攻撃のためじゃなくて、守るためのとげだから甘いっていう。 話者 1 何個かに切り分けて二つっていうのは？ 話者 3 それ単純に何か切るのが難しかった。 話者 3 なるほどね。 話者 1 その灰色の部分がさ、真ん中は白くてトゲとお尻だけ灰色なのはなんで？ 話者 3 真ん中が色付いてないのは何か別にそのタスクを抱えること自体は、何かマイナスっていうよりかは、自分的には結構プラスなな側面なんだけど、でもその結果として、何かトゲトゲした何か悩みに消化しちゃってる、自分の中で咀嚼しちゃってるから、何かプラスとマイナスを掛け合わせて、今ちょうど原点にいるから、何か色とかじゃなくてもうそのまんまの原点の白っていうのがあるかな 話者 1 でもその根底にある気質は自分の悩みを生み出すからトゲと同じいろ？ 話者 1 だから一番下の土台の部分は黒がある。 話者 1 ある程度自分で咀嚼できてるから、複雑な色を使うんじゃなくて 2 色で、自分はわかってるし、みたいな感じ？ 話者 3 そうだね。なんか色を使うっていうよりは、最初に紙を書いたときにイメージしたのが黒と白っていう感じの色だったから、もう輪郭がはっきりしてた 話者 3 なんか最初はとげもグラデーションにするって書いてたよね。 話者 3 そうそう、紙に書いたとき

は、根元が白で、トゲが黒にしようとしてた。もう本当に一番外の外部は何かちょっと悪意がある。いや悪意はないんだけど悪意があるみたいな、 話者 1 うん。 話者 3 何か悩みとしての何か、守るためのとげでもあるんだけど、なんか他者から見たときに、若干毒がありそうなとげに見えたりする。食べてみないとわからない。接してみないとわからないみたいな。なんか言ってて恥ずかしいな。関わりづらさみたいな。 話者 1 うんなるほどね、 話者 3 ただグラデーションにしなかったのは、作ってグラデーションにならなくてやめちゃった。話者 2 そういうことか、そうだよね。話者 3 てか混ざりきっちゃったっていう。話者 3 ちょっと灰色だしね 話者 1 でも本当は元々作りたかったのは、上が黒で下がこの土台の色になってになっていくみたいなぐグラデーション 話者 1 トゲも出し始めは別に害はないっていうか？ 話者 3 だんだん出てって形成されちゃった最終過程が、なんかちょっとその先、黒いみたい。他者から見たときとげがある。 話者 1 だからこのグレースケールなのはさ、さっき予想の段階で言ってた、いろいろごちゃごちゃしてるのが混ざった色っていうわけじゃなくて、むしろその逆やったって感じ？ 話者 3 そうなんだね 話者 3 割とすっきりしてるみたいな 話者 3 シンプルな黒のイメージなのかな。なるほどね。 話者 3 戻っていいですかなんか自分のやつのこのいろんな色ないけど、部屋の色っていうのもあるんだけど、なんかそのダラダラしちゃう要因が何かいろいろあるなと思ってて、なんか単純に眠いとか体力がないとかもあるけど、なんかいろいろその他の悩み、重めのやつがいろいろあってその相対でこの灰色の自分が出来上がっているから、灰色の使い方として逆なんかな。自分はいろんなのが混ざった灰色で、そっちはすっきりした灰色。 話者 3 なるほど、黒の使い方にもいろいろ表現があるんだね。そういう意味では E さんはすっきりしたっていう表現で割と原色なのかな？ 話者 2 パキッとしてるというのと、なんかもやっとした色が複数個重なってるよりもパキッとした色が重なってる方が見た目のボリュームが出るかなって思った。 話者 2 確かにね。 話者 2 この他にもいっぱい広がってるんですよごちゃごちゃがっていうのをひょうげんしたかった。もちろん何か確かに 1 冊の本に複数の色を混ぜてとか、それを重ねてもよかったと思うんだけど、別に自分自身は困ってないって話をさっきしたけど、自分の中でモヤモヤしているわけではなくて、し理由だってはっきりしてるわけ。なんで片付けられないかとかなんで片付けないかとかね。はっきりしてんだけど問題ではありますよねのイメージかな。 話者 1 へえ。なるほどね。いや面白いね、何か悩みとしてさ、自分は悩んでるけど、悩んではないんだけどっていう前提なのが割と 2 人とそれに近い。悩んでるけど途中まで悪いと思ってないっていうか、 話者 1 うん。そう、そう 話者 2 根底は悪くないんだけど出てきてるものとして、気質は悪くないんだけどその延長線上に問題だよなみたいな 話者 1 自分悩ませるものがある。F さんのとかさ、一番下に自分の気質があってそれが表出してっていうのをさ、下から上に生えてきてるみたいな。形状もそうだし、実際にその流れを聞くとすごい植物性みたいな感じる 話者 2 なんてニョキニョキね 話者 1 その時間経過みたいなのがあってすごい面白い。 話者 1 確かに 話者 1 この私と E さんのは人工物、クッションとかと本みたいなと、これはやっぱ生物間、有機

的な感じがある。 話者 1 そうだね。何となく生物だと愛着が湧くよね 話者 2 多分きっと作ってる最中にさ、こいつっていう気持ちになるよね 話者 2 あるあった。 話者 1E さんは生き物ではないけど、私の悩みとしての本っていう気持ちはないの？ 話者 2 愛着みたいなものはない。象徴だから別に私の中から生まれたものではなくて、散らかってるものだってさ、精神的に繋がってる悩みだって私から発生したやつじゃなくて、例えば会社から振られた入社前課題とか、あと、大学の課題とか、それをやることを選択したのはもちろん全部自分なんだけど、自分の問題ではないわけよ。 話者 1 そうだね。 話者 2 与えられた課題で、別にやるのが嫌なわけではない。私もタスク抱えるの好きだから。でも、こんなにいっぱい抱えて片付いてないけどどうしましょうねみたいなそういう気持ちだから、自分から発露したものではないから愛着もない。 話者 1 その理論で言うと、D さんのは割と自分から発露してるものだよね 話者 2 だし人をかたどってるしね 話者 1 愛着とかはある？ 話者 1 愛着は、自分に対して愛着がそんなにないから、こいつだらだらしやがってみたいな気持ち。 話者 3 気になったんだけどさ、何で食べさせたのが頭だったの？ 話者 2 何か足とかは別に。なんかやっぱ上半身の方が大事かなと思って、他者に食べてもらったらどういう気持ちになるかなみたいな思って、頭の部分を皆さん食べてもらった。 話者 2 メイン部分を食べさせたって感じ。 話者 2 でもさ、D さんの食べた後に種明かしされたときに、ダラダラ成分を摂取してしまってダラダラ増えちゃう、私のダラダラの総量が。人のだらだらを摂取して引き受けてしまったみたいな気持ちにちょっとなった。 話者 2 みんなもちょっと片付けられず、タスクを抱え、ダラダラする生き物になりました 話者 3 なんかこのワークショップ忖度して言うわけじゃないんだけど、なんか人の悩みを、何か他人が咀嚼して解釈してあげるっていうのは、すごい何か前向きな、ちょっと楽しいかなって思った。 話者 1 なんか気持ち悪いかもしれないけど、なんかみんなの悩みとかそういう抱えてる内的なものをちょっと食べさせてもらって、なんか愛おしくなるというかみんなの事ちょっと好きになった。 話者 1 なるほどね。 話者 3 他者理解は進むよね 話者 2 そう。 話者 1 それはさ、知らない人、初めましての人とでもそうだと思う？ 話者 2 優しい気持ちにはなると思う。なんかいつくしもうみたいな、愛おしもうみたいな気持ちにはなると思う。けど、元々友人だからより何かもっと仲良くなりたいなみたいな気持ちになったね。 話者 3 うん。なんかただただ仲良くするだけの飲み会みたいな感じよりは、こうやって何か人の結構ちょっとセンシティブな悩みたいなのを形にして分け与えて咀嚼してもらって解釈してもらうみたいな方がすごい何だろう、親密度みたいなのは上がる気がする。 話者 1 うん。なんかやっぱ大学とかって特にさ、なんか体育の授業とかもないしさ、その身体的な友達との接触っていうのがマジでほぼゼロに近いからさ、その内臓ってめちゃめちゃその身体の奥の奥やからさ、内臓で触れるという 話者 1 侵食してされて、 話者 1 結構食べるとかって究極的な何か身体接触というかコミュニケーションなのかもしれない 話者 2 だし、自分で考えたものだからね。なんか家庭科の授業だとさ、言われた通りに切って言われた通りにゆでてみたいな。 話者 1 確かに 話者 2 あれってマニュアルじゃん。それよりも多分こっちの方

が完全に自分で考えて混ぜて作ってって言うのが、普通の家庭科の授業みたいな料理よりも、よりこもってる感じというか、その人自身という感じがする 話者 1 そうだね。 話者 3 何か自分で悩みを作って悩みを食べるってだけじゃなくて、他者に食べてもらうってのはすごい、このワークショップで一番でかいなって思って、種明かしする前に何かいろいろ考察してもらって、そうそうと思ったり、ちょっと違うって思ったりするところの、なんだろう、悩みを、なんか明かしてないのに何か共有して、いろんな角度からこうじゃないこうじゃないって言われ、こねくり回されてる感覚が、ストレートに文章で、今こういう状態ですこれが悩みですって知恵袋みたいに共有するんじゃなくて、何か輪郭から攻められて、共有してくみたいな共感覚みたいなのが育てられて面白いなと思う。 話者 2 なんか文字でこういう悩みがあってって自分が言うとするじゃん。それでアドバイスされても、なんか何がわかるんだよっていう気持ちになっちゃうそうし、私とか F さんの悩みは特に悩んではいないというか、困ってはいるが、それを解決したいわけじゃないわけよ。だから、例えば私だったらでも片付けばいいじゃんとか、時間を決めれば片付けられるよとか言われたら、いや、そうじゃないんですよ。そういうことじゃなくてこれを解決したいわけじゃないけど悩みとしては抱えてるから、1 回小出しにしておきたいみたいな、そっちが近い。小出しにしたいんだよね 話者 3 すごいわかる。その感覚なんか解決するために、何か自分の悩みはこれですってやるんじゃなくて、何か悩みを共有してわかってもらうためっていう感覚の方が近いかもしれない 話者 3 そうそう。だから、何か元々何も言わずに物だけ作ってるから、自分の悩みがその他者に当てられるとは思ってない。から逆に意外と当たってるんだけどってなって楽しいし、当たってなくてもそれはそれで、なるほどねって思えるから、結構そ相談ってムズイところあると思うんだけど、全然嫌じゃないのがすごいと思うこれは。 話者 1 種明かししてないし、前提として当たらないだろうがあるから？ 話者 2 そう。当たればすごいし当たってなくても、なるほどねって面白いなって思える 話者 3 そう捉えられるんだって 話者 2 そうそう。だし、さっきも言ったけど、他者の考察が確かに私の悩みってそうなのかなとか、確かにそれってそういう表現なのかもみたいなさ。なるほど自分が意図してないけど何か深みが出てきて面白いし、自分自身の悩みの自己理解に繋がる 話者 1 そうだね。なんか自分の悩みを理解する過程を他人が頑張ってやってくれてるみたい 話者 3 何か悩みを食べるって、なんか勝手に思ってたのがもう自分で悩みを形にして咀嚼して、何か消化できたんじゃねというワークショップだと思ってたの。でもやってみて、なんか本当に相互理解じゃないんだけど、他者のなんか普段喋ったり、ゼミとかで交流したりするだけじゃわからないなんか、魂の輪郭って言ったら大げさなんだけど、なんかその人が抱えている心の輪郭みたいなのが、ほんのちょっと解像度が上がる気がした。ちょっと面白い 話者 2 しかもなんか、本当に相手の悩みを無理やり聞き出すのを、飲みの場とかカフェでやったら申し訳ない気持ちとかいろいろ出てくると思うんだけど、なんか優しい触れ合いの感じ。なんかここまで踏み込んでいいのかなみたいなふうじゃない。 話者 1 確かに。それは言語コミュニケーションと何が違うんだろう？ 話者 1 なんかやっぱ言語はその一義的

に伝えることを第1目標として話されてるからさ。私の悩みは、Aですって言ったらもうAなんだねみたいな感じになるけど、造形ってやっぱいろんな解釈の仕方があったり、色とかにもいろんなイメージが付着してるからさ、多義的に読めるみたいなことなんかなと思った 話者 3 なるほど。言語ってさ、結構輪郭がはっきりしてて、あの赤っていう言葉だったら、もうその赤をイメージしちゃうじゃん。だけど、なんかこの食べ物っていうところに、練り切りってところに 1 回昇華させることによって、なんか輪郭がぼやけるんじゃないんだけど、こういう解釈の仕方あってもいいよねっていうのが出てくるから、 話者 2 含みを持たされる感じがした 話者 1 ねりきりにすることで1回解像度を落としてんのかもね 話者 3 うんそれはあると思う。解像度を1回下げて、共有して、それでいろいろ見ながら考察してもらって、また自分が話すってことによって、解像度上げて、言語プラス食べてもらうっていうところの身体的接触で悩みを昇華させてるっていうのに近いのかな。 話者 2 なんかちょっと軽くなるのは食べたからとかじゃなくて、輪郭をぼやかしたり他の人に考察してもらったりすることで、1個持ってた自分の解釈が広がったり揺らいだりして、何かにじみ出ていく感じ。水にインク垂らしてにじんでいく感じで、別に総量としてはすごく変わるわけではないんだけど、薄まるから、なんか気が楽になるというか、気が重い悩みでは私はなかったから、ちょっと違うかもしれないけど、にじんでいって薄くなって、自分の今回作った悩みというか根源と、ちょっと手握って仲良しになれる感じはある 話者 1 なるほどね。 話者 2 これが人のめっちゃ身体的な悩みとか、より激重の悩みだったらまた全然違うとは思う。 話者 2 そうだよね。 話者 3 なんかもっと本当に人に言えない系の悩みを具現化してくださいだったらまた結果は違うと思うんだけど、 話者 2 でも今回はみんなが明かしてもいいっていうレベルの悩みだから、 話者 1 それは種明かしとかは結構大事なスタンスだと思ったから明かしていい悩みにするのは結構大事なポイントだったんだけど、そうだよねそこで 1 回フィルターを通ることによって、悩みの重さもフィルタリングされてるから、割と揃ってすごい良かったのかもしれない 話者 2 人に共有できる悩み 話者 3 他人の表層理解にはすごいいい 話者 2 一気に距離近くなるね 話者 1 なんか本当はもっと重い悩みでやった方がいいのかなって思ってたんだけど、意外とそんなことないんだね 話者 2 これぐらいの悩みがちょうどいい気がする 話者 3 でもその重い悩みでやっちゃうとさっきEさんが言ってたけど、なんかそのCさんの食べてだるってした感じがうってなるみたいな感覚がなきにしもあらずだから、ある程度共有しても可能な悩みの方が、この悩みを食べるっていうこのワークショップ自体にはいいのかなって思った。重いやつじゃなくて。話者 2 ワークショップとして、自分の悩みと向き合うためというよりは、その側面ももちろんあるんだけど、横の繋がり。友達とか一緒に参加した人との関係性の構築とか、そういう部分の効果が大きい気がする。私が参加前に予想してたよりもね。 話者 1 うん、確かに開示だもんね 話者 3 自分でさ、全部解釈が1回全部造形して食べて解釈してじゃなくて、人を通してフィルタリングすることによって、横も繋がれるよね。 話者 3 そうそう 話者 1 へえ。 話者 3 面白いと思った。 話者 1 他人の悩みの輪郭をちょっとわかることで、優

しくなるっていうか、 話者 2 なんかやっぱ人のことって知るとより仲良くなった気分になるじゃん。より知れたし、相手も知ってくれたし、一緒に食べたしみたいな感じで、自分の悩みと向き合うすごい、己を再確認するワークショップというよりは、にじむし横に広がるしみたいな。 話者 1 なるほどね。 話者 3 例えばＥさんが家でそんなに汚く過ごしてるとかしらなかったし、Ｄさんがそんなだっるっと過ごしてるのも知らなかったから。 話者 1 確かに秘密を開示みたいなね。でもその Ｄ さんのを食べて、自分結構だるっていう要素摂取したわって思ってくれてるのが結構意外で、前の人たちとかは食べたことで、その要素が自分の中に入るみたいな感覚はないみたい。 話者 2 へえ 話者 1 自分も食べたことで自分の悩みが自分の身体に帰ってきたみたいな感覚はもうない。食べ物みたいな意見が多かった。 話者 3 そうなんだ。 話者 1 なんでだろう 話者 2 咀嚼までは意味があったけどとか言われて、 話者 2 共感があったよ食べたことで、 話者 3 共感合ったよ 話者 1 ここは結構その味からとかのディスカッションの中で割と悩みが当たるみたいな 話者 2 なんか向こうでやった悩みの内容がどうだったかわかんないけど、少なくとも私はこの 3 人の悩みが自分の中にも少なからず要素としてあるものだだった。私もダラダラしちゃうし、タスク抱えるの大好きだけどそれに押しつぶされそうになるしみたいな。だから、それをこの人はこういうふうに感じてるんだっていう理解があったけど、プラスして食べたことで、自分にその要素が取り込まれた感じもあったし、でもそっちの班でそれがなかったってことは、食べたことで自分の中のその分野が活性化というか呼び起こされてるのが取り込まれた感覚になってるのかもしれないけどね。でもなんか、私はすごく共感があった食べることで、 話者 2 それはその人たちの気質にもよるんだと思うんだけど、でもその食べにくそうとかさ美味しくなさそうみたいな発言とか食べてその要素が取り込まれた気がするみたいな。なんだろう、でもすごい 話者 3 なんか思ったのは、要素を完全に取り込むんじゃなくて、 話者 1 はいはい、 話者 3 理解が進むっていう方が、言葉が合ってるのかなって思ってて、それこそ Ｄ さんの食べたときに人の頭かって思ったんだけど、別に味とかも美味しくて、種明かし聞いて、だらってした悩みだよって言ってて、なんかそのだらっとしちゃうってのももちろんわかるし、何か自分の中で追体験。確かにそうだなって思うんだけど、自分の中で何か発酵させて、しっかり解釈してあげるっていうよりは、その Ｄ さんに対しての理解が進むっていう方の割合の方がでかいかもしれない。取り込むってよりは、他者のイメージを取り込むかんじ。悩みを取り込むんじゃなくて、他者のイメージ、 話者 1 あなたはダラダラしちゃうのが大変なんだねみたいな。 話者 1 私もそういう場合あるわみたいな。 話者 1 他者の悩みにさ、強く共感するとさ、それは割と取り込むのと同じぐらい自分の中でナチュラルに発現していくっていうさ。 話者 2 取り込んだ感覚だった。けど、確かに自分の中で分析してくと、それは自分の中にある感覚だから、共鳴してそれを取り込んだと認識してるのかっていうのはあったし、あとやっぱ自分の悩みを食べることよりも、他の人の悩みを食べるとか、自分の他の人に食べてもらう方が、おもしろいのかな。自分を食べるのは再確認な感じがした。そうだよねって。それを人に解釈してもらったときの方が、自分その側

面あるかもとかなるほどねって言って自分の悩みがにじんでいたり、解像度が高まったり、ていう認識でいた。自分の悩みを食べる気持ち悪さとかあんまりなかった。 話者 2 以外と分けちゃったしね。 話者 2 自分の作るテーマとの兼ね合いもあると思うけどね。 話者 2 なるほど。

【A さん　インタビュー】

話者 1 よし、はいなんか 30 分以内ぐらいでインタビューをさせていただきます。まず全体のワークショップ一通りお疲れ様でした。 話者 2 お疲れ様でした 話者 2 ざっくりとした感想とかありますか？ 話者 2 ざっくりとした感想ですね。意外と想像以上に造形難しいなっていうのと、あとやっぱり、結構見た目からその悩みを汲み取るのが難しくて、なんか直接本人から話を聞いて、そういうことだったんだっていうその理解度が進んだ割合としてはやっぱり話聞いた方が多かったかなって感じでした。 話者 1 なるほどね。見た目からこういう悩みだとは思わないけど、でも話を聞くだけど実際に食べるのと組み合わさるとまた違ったりした？ 話者 2 確かにね。さっき B さんも言ってたんですけど、やっぱり話聞くだけだったら結構ふーんで終わるんすけど、何か食べるっていうその実体験を伴うことによって何かより共感度が増したっていうか、 話者 1 なるほどね。 話者 2 結構人の悩みとか、結構その自分の悪い癖なんですけど、結構適当に聞いちゃうんですよね。自分が共感できないと、なんか結構「でもそれってそうだよね」みたいなこと言っちゃったりしちゃうんですけど、やっぱりその何か食べて、なおかつ話を聞くと、共感度がちょっと増した感じしますね。 話者 1 なるほどね。それは味とかでその人がその悩みを捉えている感覚を、五感で感じるからみたいなこと？ 話者 2 のもあるんですけどやっぱり聴覚だけじゃなくて、味覚とか多角的にアプローチしていくことによってより解像度が上がるという感じです。 話者 1 なるほど。普段はどうやって悩みと向き合ってる？人に話すことが多いとか書くことが多いとか。 話者 2 人に話すですかねどっちかっていうと。めっちゃ親しい友達とかに、まず喋ったりするんですけど、でも本当に深い悩みとかだと自分の中でずっと抱えて少しつなくなるのを待つというか、 話者 1 自然消滅？ 話者 2 そうですね。何か少しずつその他のことで気を紛らわしたりとか、バイトめっちゃ入れたりとかして少しずつ気を紛らわせていく感じです。 話者 1 今回の悩みはちょっとどれぐらいの規模感で A さんが思ってるのかわかんないんだけど、自分が普段やってる悩みとの向き合い方と比べて何か違いとか感じたこととかある？ 話者 2 自分の悩みを表現しないことの方が多いんですよ。だから表現して、他の人に伝えるというか、そういう点に関しては結構今までにない悩みの表現とか、悩みの解消の仕方だったんじゃないかなって思いました。 話者 1 なるほど。順次行くんだけど、質問紙に回答しているときは何を感じたかを聞きたいです。 話者 2 何か個人的な例なんですけど、私の場合はずっとお姉ちゃんにやられてた被害者みたいな感じだったんですよ。最初のイメージとしては、でも書いてる途中に昔おねちゃんの顔にビンタしたこともあるし、なんかもしかしたら私も加害者なのかなみたいなことを思い出して、なんか結

構ずっと自分は被害者だって思い込んでたけど、何か改めてその自分の身を省みることができた。そういう機会だったかなって思いましたね。 話者 1 書くことで結構客観的になったというか悩みを俯瞰して見れたみたいな？ 話者 2 そうです 話者 1 何か書きにくかったとか、デザインに起こすことで悩みをより客観視できたみたいなことがあったりする？ 話者 2 そのデザインに、トゲトゲの部分とつるつるの部分があるじゃないですか。そのツルツルの部分を書こうって決めたときに、自分やっぱりおねちゃんと仲良くしたいんだなっていう気持ちにあることは結構強く実感しましたね。 話者 1 なるほどね。感情が先でデザインで起こすんじゃなくて、デザインを決めて悩みを知ったみたいな？ 話者 2 そうですね、やっぱりそのおねちゃん許したいんだなっていう、許したいというか仲良くなりたいんだなっていうのが結構でかいんだなっていう。感情のままのときは、もう別に仲良くしなくてもどっちでもいいみたいな感じだったんですけど、デザインに書いてみて、ツルツル部分がちょっと大きめなのを気づいて、許したいのかもってかんじた。 話者 1 へえそれめっちゃ面白いね。それはビジュアル化してみて気づいたことってことだよね？ 話者 1 改めてビジュアル化して、なりました 話者 1 それは食べてるときとか作ってるときにもそのことを割と意識したりはした？ 話者 2 作ってるときはめちゃくちゃ意識しました。やっぱりそのちゃんと自分の心の青い部分を表現しようっていうところで、何か最初の辺はデザインのときも、もうちょっと面積少なくしてたんですけどうんやっぱこの悩みと向き合ってる、向き合っていく中でどんどんどんどんそういう、なんかやっぱりいつかはなくしたいなっていう気持ちが大きくなって、何か作るときにちょっと大きめにしようとか、 話者 1 へえ。そうなんだ。きっちりその悩みとデザインが対応関係にあって、なんかそれをいじってる感じがすごい面白いなと思ってました。作ってるときは、結構悩みを意識しながら、100%そこに落とし込むみたいなことを意識して作ってた？ 話者 2 そうですね、できる限り自分のその心情というか悩みを忠実に再現しようとしました 話者 1 なるほど。結構満足のいく再現度？ 話者 2 そうですね。なんか唯一心残りだったのがザラザラを表現できなかったところだけ。それ以外の造形は 90%ぐらい満足してます。 話者 1 うん。なるほどと A さんとってあれは本当にと A さんの悩みってかんじだった？ 話者 2 そうですね悩みそのものって感じです 話者 1 悩みそのもの感があるから食べたときとかは何か思ったり感じたこととかある。 話者 2 何かその悩みなんですけど、やっぱり食べようってときはどうしても悩みより食べ物っていう認識の方が強くて、やったみたいな気持ちが正直大きかったかなって思います。 話者 1 じゃあさ、それを、これはこういう悩みなんですって説明してて他人に食べさせたじゃん。他人の中に自分の悩みが入ってたみたいなのは、何か思ったりした？ 話者 2 これもさっきの話とちょっと関係するんですけどやっぱりその食べ物って認識。どうしても何か自分の作った練り切り食べてくれてるっていう気持ちの方が大きかったかもしんないっす。 話者 1 説明とかは結構ちゃんと悩みとして説明するけど、物としてはおかしいっていう感じがつよかった？ 話者 2 うん。 話者 1 なるほどね今改めて自分の悩みっぽいものを自分の身体に取り込んだって思って何かちょっと違和感があったりとかは全然

ない？ 話者 1 特に 話者 1 食べやすかった食べにくかったとかも全然食べやすかった？ 話者 2 食べやすかったですね 話者 1 逆に他の人の悩みも食べ物として認識してた？ 話者 2 ちょっと認識しちゃってたかもしんないです。なんか普通に美味しそうみたいな。 話者 1 なるほどね。でも他人の方がなんていう想像つかないからドキドキするじゃん。どんな味なのかなみたいな。 話者 2 結構その食べながら、何かこれどういう悩みを表現したいのかなっていうのを考えてたんで、何か食べ物半分、悩み半分みたいな認識だったのかもしんないです。他人のものは、 話者 1 なるほどね。他人の方がちょっと悩み認識が大きいのかな 話者 2 多分これは自分のはどうしてもわかりきってるから意識が向かないんですけど、他人のちょっとわかりきらないところがあるからそのどういう悩みなのかっていうのを脳みそ結構回転させながら、こういう味だから何か例えば、辛いから怒りなのかなみたいな。 話者 1 なるほどね。 話者 2 結構悩みにさく脳みその量が増えたという感じがしました。 話者 1 他人の悩みを食べるっていうことに関しては特に抵抗感はなかった。 話者 2 そうですね。なんか、むしろ何か自分の中に取り込んで理解しようかなっていう気持ちの方が大きかったです。 話者 1 またちょっとかぶっちゃうかもしれないんだけどその理解度としては話を聞くとか、何か相談を受けたりするよりも共感できたみたいなお話が最初にあったよね。っていうのは、その悩みについて結構考える余地があったというか最初明かされてなかったからみたいなのも強いのかな？ 話者 2 確かに明かされてないからこそ分かろうっていう気持ちの方が強くて、だからこそ何かこれはこういう悩みなのかっていう浸透してくる感じがしましたね。 話者 2 結局これ終わってみて 2 人の悩みについて、理解度というか共感というか、感情面ではどういう気持ちになってる？ 話者 2 感情面で言うと、その理解はしてるけど、うん、理解と共感はできるけど、その何か、すごく理解という感じではなくてやっぱり、うんそのやっぱりその自分、とはやっぱり違うから、確か何かこういう悩みがあるんだなみたいなことを、結構やっぱりどこか他人ごとという感じはしましたね。どっちかっていうと 話者 1 他人ごとだけど、話を聞くよりかは、きょうかん？ 話者 2 そうですね共感であったりとか、理解度は高いかなって感じです。 話者 2 なるほど 話者 1 これ 1 回だと、そんなすぐに悩みと和解できないと思うんだけど、日常の中に取り入れていきましょうみたいな。 話者 2 なるほどそれは食べ物でってことですか。 話者 1 そうそうそうそうなんか、やっぱりおねちゃんとは仲良くできないってなったときに、食べるとか 話者 2 なるほど、 話者 1 なんかそういうふうにしましょうってなったとしたら、それには意味があると思う？ういう意味を持つと思う？ 話者 2 なんだろう。俯瞰する意味じゃないかなって思います。やっぱり何か自分の感情ってどうしても主観的になっちゃうというか、自分の中だけの感情で動いちゃうんでやっぱり物として自分の視覚で客観的に見ることによって何か何か、俯瞰的な視点というか、 話者 1 確かに実際俯瞰だしね。 話者 2 そうですね。話者 1 それはさ、その悩みを外に具現化するっていうことに意味があるっていうことだと思うんだけど、それって文章にする、絵にしてデザインにする、実際に触れる形に練り切りとしてする。食べるみたいな、この工程があると思うんだけど、そのどこに一番強い要素が

あるのかな。話者 2 結構 2 個同じぐらい強いものがあって一つはビジュアライズすることあともう一つは作ることだと思ってて、何かこれが結構自分の特性っていうのもあると思うんですけど、うん。その私結構その文章を書いたり読んだりするのが苦手で、どっちかっていうとその絵で書いたり作ったりする方が自分の感覚として、その外部から取り込みやすいってのがあって、やっぱりビジュアライズすることによって、客観視の第一歩が始まって、作ることによって、その次の客観視のステップに入って何か作り上げるみたいな。 話者 1 なるほどね。粘土とかで同じ工程を踏んで作るビジュアライズ化するフェーズを踏んで制作フェーズがあってっていうのだとこれと変わらない結果になりそうかな？ 話者 2 そうですね自分の悩みだけ表現するんなら変わらないと思うんですけど、でもやっぱりその他人の悩みが表現されて、それで理解しようってなるならやっぱり食べるっていう新しい段階があることによって、共感力が強くなったりというか理解度が深まったんで、他人の悩みを知るなら食べるも必要なんじゃないかなって思います。 話者 1 なるほどね。確かに自分の悩みって 100%は自分の中にあるから出したものを取り込む 話者 2 そうですよね。なんかまた自分の中に戻ってきたみたいな感じなんですけど、そのやっぱり他人のものは他人から自分のところに来るんで、味覚とか新しいその感覚で多角的に捉える方がわかりやすいんじゃないかなと。 話者 1 なるほど。でも、多分その粘土と練り切りの違いって 1 個あって、粘土は自分が作った悩みを常にそこに物体として置いておかなきゃいけないっていう。私はそれを消滅させたいんだけど捨てられはしないから食べて自分に戻す。片づけるみたいな意味もあって。出しても戻せるみたいな。そういう違いとかはさ何かあったりするのかな？ 話者 2 例えばその自分が今回作ったやつで仮定すると、確かにずっと残られるとちょっと嫌な気持ちがしますね。まだあるわみたいな。あと何かもしその関係とかが改善してその悩みがなくなったときに何かあってるとなんか昔の嫌な気持ちを思い出しちゃうというか、またバットモードに入っちゃうのかなっていう感じがするんでこの点を加味するとやっぱり食べて消化する方がうんいいのかなって感じはします。 話者 1 なるほど。そうだよね粘土の場合はその一点の悩みを固定化しちゃうみたいな 話者 2 なそうですね。ずっと半永久的に残っちゃうから。自分のその直したい悩みとかだったら結構自戒みたいな感じがあっていいと思うんですけど、自分を戒める意味じゃなくて普通に自分の苦しみをだけを表現するんだったら、なんかずっと置き続けるのは、その人にとってつらいことなんじゃないかなって感じがします。 話者 1 そうだよね確かに。なんかさっきの日常の中に取り入れていくとって話なんだけど、粘土じゃないからこそ、明日作る悩みをまたちょっとあの青い部分が侵食してるかもしれないしちょっとずつ違う悩みを、表現にできる。 話者 2 その食べ物に必要なそのフレッシュさというか、その時間の短さっていうのは結構その自分の心の機微というか、その動きやすい部分を表現するのにはいいんじゃないかなって思います。 話者 1 なるほどね。なるほどなんか面白いお話が聞けたきがする。唯一対人関係っぽい悩みだったんだけど、自分の悩みを作って食べるのと、対人関係の悩みを作って食べるのと、なんか意味合いが変わってきたりすると思う？ 話者 2 どうでしょうね結構難しい

かもしんないっす。 話者 1 なんか今回はさ結構 A さんが自分の中の葛藤を書いてくれたけど、ただただ、お姉さんに対する怒りを悩んでてみたいなのを作ったとして、それって食べるのに抵抗があったりするかな？ 話者 2 ちょっと抵抗があるかも知れない。怒りを外に出してちょっと怒りのメーターが減ったと思ったらまたもう 1 回取り込んで怒りのメーターを貯めなきゃいけないからこの作業意味あんのかなみたいな感じにはなっちゃうかもしれないです。 話者 1 なるほどね確かに。それを他人に食べてもらうことで、怒りのメーターは下がったままになるのかな。 話者 2 ちょっと有り得るかも例えば自分がねお姉ちゃんに対する怒りの気持ちを、例えばお姉ちゃんに食べさしたら、なんかこれが私の怒りだ。食べろ。みたいな 話者 1 対人関係の悩みだったら、相手に食べさせるっていうことにより大きい意味が生まれるのかなと思ってて、なんか相手に自分がこれぐらい嫌だと思ってるっていうの味で伝えるみたいな。 話者 2 なるほど。確かに何か、言葉だけじゃわかんないから味覚とかで何か結構切実に伝わるというか、なんか言葉だとどうしても何か含みがあったりして、直接伝わらないじゃないですか。でもなんか味覚とかだと、なんかダイレクトに来るから、なんかちょっとしか怒ってないと思ったらめっちゃ怒ってたみたいなのがわかるかもなと思いました。 話者 1 そうだね。味は結構みんな食べてみて意外だったとかいろんな感情があるんだなっていう印象があったから、それは結構伝えられるかもしれない。最後に、悩みを食べるっていう手法について、何か気になった点があったら教えてください。 話者 2 悩みを食べる。なんか、結構関係ないかもしれないんすけど、今回ねりきり使ったじゃないですか、なんか他の食べ物だったらどうなんだろうなって。結構ベースが甘いから、例えば私だったら怒りの感情を伝えたかった部分があったじゃないすか。うん。だけど想像以上に薄まってしまった。ていうところが大きくて、だから無味のところから自分で味を加えて、その自分が本当に考えた通りの味になるっていうのは結構難しいのかなっておもいました。 話者 1 なるほどね。そうね確かに。何か例えばステーキとか、フルコースとかでこれをやることも多分できると思うんだけど、何か他のものの命を使うっていうのが生々しいのかなって思ってて、ねりきりっていう和菓子は規定に植物性であることっていうのが含まれてて、これも白インゲンをベースにした小豆とあんこだから、植物同士を掛け合わせてるものなんだけど、植物に申し訳ないんだけど、なんか真っ白なキャンバス的な意味が私の中であって、あと練り切りがすごくその手作業で練るから、作りやすいのかなとか、あったんだけど確かにその甘いっていうのは問題で、私は自分の悩みを練り切りで作って結果甘くて美味しかったっていうところにちょっと救われたみたいな部分もあって。 話者 2 確かに、これがめっちゃ辛かったりとかしったらなんか余計怒り倍増しそうですね 話者 2 確かにめっちゃ辛くて、相手にもめっちゃ辛いんだけどみたいな。結果美味しくない。多分それってすごいゲテモノみたいなものが登場して、結果めっちゃまずいみたいな吐きそうみたいな 話者 2 確かに。なるほど、 話者 1 そっちもやってみて対照実験をねやったら面白いかも 話者 1 これに関連してさっき思ったのが、怒りを外に出してまた食べたらまたメーター戻っちゃうみたいな話したじゃないですか。でも甘さがく加わることによって結局

の話怒りが減るのかなっていうさっきの話聞いて思いました。 話者 1 なるほどね。 話者 2 だから、ねりきりだからこそ悩みが減るのかなって感じがします。 話者 1 確かに等量だったら、等量で帰ってくる。 話者 1 プラマイゼロみたいな。 話者 1 なるほどね。でもなんかもう 1 個思ってたのが、自分の中にある悩みっていうのは突っかかっちゃって、自分の中にあるけど消化できないものなんだけど、消化できる形に落として食べることで、すんなり代謝されるというか排出されていくみたいな。そのいったん自分の中に帰ってくるんだけど、それはもう消化できる形になってるからそこにとどまりはしないのかなって思ってて、そういう感覚だとどうかな？ 話者 2 確かに、結局その体を通り越して外に排出されるってなると、プラマイゼロじゃなくて結局総量としては減ってるんです 話者 1 なるほどね。何か質問は以上になります。ありがとうございました 話者 2 ありがとうございます。

【B さん　インタビュー】

話者 1 お願いします 話者 2 お願いします。話者 1 なるべく自分の言葉で思ったことを正解とかはないので泣く泣くお答えください。誘導尋問にも負けないでください。お疲れ様でした。 話者 2 ありがとうございました。 話者 1 全体をまず通して悩みを食べるというワークショップのざっくりとした感想でも、お先にお聞かせくださ 話者 2 そうですね。ちょっと悩みのコンセプトに合わせて今回目玉を付けてみたんですけど、それをしたことによって、ちょっとペットみたいな愛着が湧いてきました。 話者 1 なるほどね。 話者 2 それをちょっと狙った効果が特にないのでサブ効果なんだけど、あの自分の一部を、切り分けてってか分裂した子がペット化したみたいな感じ。だからちょっとめでたくなったし、食べて kannivalism 感じで悲しくなった 話者 1 なるほどね。その自分を食べてるっていうよりも、自分の愛すべき分身を食べてしまったみたいな。話者 2 そうだね。そっちの方が近いかな。話者 1 へえその食べにくかったみたいなのっていうのは、単にその子への、何か自分が作った練り切りへの愛着なのか、それともその悩みを込めているっていう点にも何か関連性があるのか。 話者 2 悩みは、なんだろう、そもそも飲み込めないってよりかは、日々、うねうねね。変わってくる悩みちゃんの形を何かどうフィットさせていこうみたいな感じ。なんか消滅するとは思ってないなにきかれたっけ？ 話者 1 その食べにくいのは悩みを持ってるからってことでもある？ 話者 2 んよりかは愛着が湧いちゃったからかな。 話者 1 もう 1 個作る予定じゃなかったミニサイズ作ったじゃん、あっちは。自分の分裂のさらに分裂みたいな感じだったからか、もう直接的な自分との繋がりはそんなに感じなかったの。だから、食べる全然抵抗なくなかったそっちはガンガン切って食べられた 話者 2 なるほどね。そ結構 B さんの悩みっていうのはさ、自分って本当はこうなんだよねみたいな、うん。自分自身みたいなものの悩みだったじゃん。だから私はそれを悩みに込めてね作ったの目玉ちゃんはうん、 話者 1 自分の分身、結構自分自身に近いのかなって思ってて 話者 2 そうそう私に近いと思う 話者 1 だから自分を食べるみたいな意味で食べにくかったってことなのかなと思ったんだけど、ペットとなるとまたさ次元が違ってくるじゃん。 話者 2 私を

デフォルメした感じのものは出来上がったんだけど、でもやっぱり見た目が違いすぎるから自己同一視はしなかった。自分と同じエッセンスを含んでいるだけで、自分ではないという認識だった。 話者 1 なるほど、ありがとうございます。普段はどういうふうに悩みと向き合ってるとかはある？人に話すとか書くとか 話者 2 私の一般的な悩みの話で言うと人に話す派です。これに関しては、この今回の悩みに限って言うと、何だろう解決するタイプの悩みだと思ってないから、相談してないかも。 話者 1 なるほど人には解決を求めて相談する？ 話者 2 っていうスタイルかも。 話者 1 解決しないと思っている悩みは普段は自己消滅型みたいな、自分の中に留めておく？ 話者 2 自分の中で一番うまい付き合い方を探していく感じ 話者 1 うん。その普段やってるその話すでもいいし、自分の中で見つけていくみたいなものと比べて今回その食べるみたいなのだったりとか和菓子にして食べるみたいなのは違いがあったように感じる。 話者 2 まず話すとは全然違う。話すときは、バラけたパズルを提出してピースはめる手伝いをしてもらう感じ 話者 1 はいはい。話者 2 だから、解消が最初から見込めている状態。その解消の方法を一緒に探してもらってるんだって解消するっていう確証を持って話している感じ 話者 1 うん。なるほどね。 話者 2 もう 1 個の自分でこう考える方は、ちょっと近い。食べるのとも近かった。 話者 1 なるほどね。自己解決は食べるのと近いのか 話者 2 自分で向き合い方を見つける手がかりというか、探していく過程に近かったその作ってるところが。 話者 1 なるほどね、作ってるところがね、話者 2 うん。 話者 1 向き合い方を考えながら作れたってことかな。 話者 2 そうだね 話者 1 今悩みを現状自分はどう認識してるかっていう、話者 2 客観的的なこと？ 話者 1 客観視ができた。 話者 2 それはさっき A さんと話したんだけど、ビジュアライズ化するっていうところも大きな意味があって制作するっていうところにもすごく大きな意味があると思うんだけど、なんかそういう制作のときにって言ってたのは、なんかビジュアルよりも大きいってこと制作の方が？ 話者 2 うーん総合してかな、なんか立体物だから、2 次元的に見たビジュアルだけじゃなくて、こねこねする感じ込みで 話者 1 なるほどね。それは例えば同じようなもので粘土とかもあると思うんだけど、同じ工程を踏んで、こういう悩みを作ろうってビジュアル化したものを粘土で作るっていうのと、割と同じだったりするのかな？ 話者 2 そうだね、味っていうプラスアルファがついてくるかどうかの違いで作る工程自体はねんどでも同じ効果私はあったと思う。 話者 1 なるほどね。ちょっと順繰りに順番にやりたいんだけど、まず質問しに回答してるとき、何を感じたか。 話者 1 質問しに回答してるとき、なんかそんなに悩まなかったかも。形、話者 1 形の方ね 話者 1 とか色とか、なんかあれ全部合わせて、10 分かからなかったと思う 話者 1 そうなんだ。それは何でかな。 話者 2 なんでだろうね。でも別に普段悩みをさ、お菓子にするってこと考えてきてないから普通になんでだろう。 話者 2 そうだよね、 話者 2 ちょっとなんでかわからないや 話者 1 それは普段無意識にすごく考えてて自分の中で割と考えられてるものだから早かったのかな？ 話者 2 この悩みに関しては解決は見えてない。付き合ってくタイプのものだっていう理解をしてるんだけど、どこが悩みのポイントかはわかってるからかもしんない。だ

からそのポイントをそれぞれ表現したらあれになったっていう感じかもしれない。 話者 2 なるほどねビジュアル化することで新たな発見みたいなものは特になかった？ 話者 2 うんなかったかも。 話者 1 という意味ではやっぱりそこまでは、普通で、そっから作るっていうところに意味があったりするのかな？ 話者 1 そうだね。でっざんしていたタイミングでは、理解が深まったってよりかは解像度がちょっと良くなったって感じ画質が少し良くなりましたって感じ。 話者 1 なるほどねなるほどね。作ってるときにそれが自分の悩みだみたいなことはどれぐらい意識した。 話者 1 意識かあでも自分の書いたデッサンとかガイドには沿ってたから、多少は意識してたと思う。これが悩みだったか怨念を込めてこねたりとかは別にしなかったけど 話者 1 作るときはむしろその設計図通りに作ろうみたいな？ 話者 1 設計図にどれだけ近づけるか頑張ってたかも。 話者 1 あんまりそこでは意識せずわりと作業に集中って感じかな。なるほどね。そのさっき食べにくかったみたいな話があったんだけど我が子を食べたときはどういう感じだった。 話者 2 悲しかった。かわいそうってなった 話者 2 かわいそうなんだ。なんか元々自分の中にあった悩みを出して戻すみたいな、感覚ではなく、もう新たな？ 話者 2 確かにね、そこが難しいところなんだけど要素としては自分の要素を持ってるんだけど、さっきも言った通り、自己同一視してるわけではないの。 話者 1 なるほどね。 話者 2 戻ってきたっていうよりかは、食べたのは私だからあれなんだけど、食べられちゃったいなくなっちゃったみたいな感じの方が近い。 話者 1 なるほどね。自分の中に入ってきたっていうよりも消滅なくなっちゃったみたいな 話者 1 犯人は自分なのになんかやられちゃったみたいな感じだったんだよね 話者 1 自分の要素が一部分ある。でも自分じゃないものって、子供だよね 話者 2 そうそうそう。子供が連れてかれちゃったみたいな感じ。結構悲しい 話者 1 自分が他人に食べられるみたいなことにも結構抵抗があったりした？ 話者 2 何か他人に関しては特に抵抗なかったね。どうぞどうぞって感じ。 話者 2 それは何でなんでだろうね 話者 1 自慢のわが子をちょっと味わって欲しかったかも 話者 1 なるほど 話者 2 そっちは消えるってよりかは、うちの子かわいいでしょ見てみての気持ちに近いかも。 話者 1 なるほどなるほど。もう自分の悩みをかわいいと思えてるのね。 話者 1 もしかしたらそうかも。そもそもその悩みを、なんか、吐き出してしまいたいものってよりかは付き合っていく気満々で、かわいがってるかもしんない 話者 1 元々の悩みに対するイメージはポジティブだったりする。 話者 1 どっちでもないかな。別にポジティブではない特に、でもすごい忌むべき何かってほどではない。 話者 1 それは元々はそういう感じだったと思うんだけど、今回その愛すべき我が子みたいなものの体験を経て、ちょっとはイメージが変わったりしたそれともこれとそれとは別？ 話者 2 変わった。 話者 1 そうなんだ。 話者 2 思ったよりいや、自分はそんな嫌がってないのかもしんないって気づいた。その自分がそれをめでられる感情というかめでられる状態で自分がいるとは思ってなかったから、何か物すごくふさぎ込んでるわけではないけど多少悩んでいるっていう認識だったから、思ったより自分悩んでる自分をヨシヨシしてあげられるぐらいの余裕はあったんだなっていう気づきはあった。 話者 1 なるほど。 話者 2 それこ

そ、ある意味ポジティブ方向に変化し立って言えるかも。 話者 1 悩みの和解の一部始終って感じだね。なるほどね。なんかもっと他の参加者のその毒々しい悩みを食べるみたいな、逆のパターンのときはどういうふうに思うの。 話者 1 何だろう。ちょっと C さんのときに言った体験が割と近くて、あなたの脳内そんな感じなのね。覗かしてもらいますって感じ。話者 1 なるほどね。なんていうのその人が感じている感覚を追体験するじゃないけど 話者 2 拝見しますの気持ちだった。 話者 1 へえそれは他の人から話を聞いたり、他の人が例えば私の悩みはこういう絵なんですって持ってきたとして、何かそれとは違ってくる？ 話者 1 なんだろう。絵だと、結構解説頼みになっちゃうかも。その人の解説がないと理解することが難しくて、でも味は何か味覚は視覚より解説がそんないらないかも。 話者 1 それは味はみんな同じように感じているだろうってこと？ 話者 2 そうかも。 話者 3 うん。 話者 2 見てるものはちょっと形とか色とか考えることが多いし、バリエーションがありすぎて一義的に定義できないじゃない。 話者 3 うん。 話者 2 でも味は、5 個ぐらい？わかんないけど、ある程度イメージとの結びつきが強固だから、それでなんか納得しやすかったのかも 話者 2 なるほど。その人の感じている悩みっていうものをなんていう味って 100%受け取れるから、なんか買わさ解説がないとさ、見逃すけど、味は味わい見逃さないから、100%もらえてるみたいな感じもあるのかな。話者 2 それあるかもしれない 話者 2 なるほどね。他人の食べたときは他人の悩みが自分の中に入ってくるみたいな感じはあったりする？ 話者 2 覗かしてもらった感じ。丸ごと一個食べたら違ったのかもしれない。切り分けた試食くらいだったから、視覚で、その人が持ってる悩みのイメージを脳内に覗かしてもらって、味覚で、共感とか追体験とか、理解したっていう感じかも。 話者 2 なるほど。例えば B さんみたいに長期的に付き合っていかなきゃいけない悩みの場合ってさ、1 回これやっただけでもう付き合っていけるとはならないじゃん。これをなんか、長期的にやりましょうみたいな。日常の中にこの悩みを食べるっていう作業を組み込みましょうって言われたら、それはどういう意味を持つと思う？ 話者 2 変身すると思う。1 回 PET っぽくして納得できちゃったから、これからも多分目玉っていうモチーフはおそらく固定で、色とか形、多分私の場合おそらくメイン色だね、が変化すると思うんだけど、それによって自分の理解というが変化してるなみたいな悩みへの自認が、ちょっと変わってるなっていうのを、観察日記みたいな感じで追っていけるかもしんない。 話者 1 なるほどね。日々その自分の悩みがちょっとずつ変わっているのを、日記みたいな感じで見られるってことか 話者 2 今自分からポコッて分身したら何が出てくるかなっていうのを観察する感じかも 話者 2 へえ。なんかさ、それを同じように粘土でやってくださいっていうのとはまた違うと思ってて、粘土でやっていくとその過程が残り続けていくじゃん。ていうのと、自分の中の栄養素になって、自分にプラスのものとなって消化して消えていく。捨てるとはまた違う消滅していくものじゃん。一回出して消滅するみたいなのってどういう違いがある？ 話者 2 どうだろう。でも前のイメージって脳内で残ってるじゃん。形は消えるけど、そこから引っ張り出して、次の作品に影響すると思うんだけど、実際実物を横に並べないことでそっちに引っ張られないと思う。

話者 1 なるほど 話者 2 なる前の自分に 話者 2 前の悩みみたいな 話者 2 有ると前自分が作ったものに何か寄せてっちゃう気がする。それがないと思う。 話者 1 なるほどね。なんか、すごい重い悩みとかだとさ、その悩みが変化している形状を残しておくってことも結構つらいみたいなことがあったりするのかなっていうのもあって、そういう意味で消化しちゃうっていうのは何か一種供養的なのかなと思うんだけど、悩みを食べるっていう手法について、何か思ったこととか感じたこととかある？ 話者 1 食べるかあ。ちょっと実験の趣旨と違う気がして申し訳ないけど、私やっぱ食べるより作るの方感じる部分も大きかったかも。食べたよ確かに食べたんだけど、食べたから何かその悩みに起こったかと思うと、あんまり思わない。さっきも言ったけど食べたのは自分のくせにマジで消えちゃったみたいな、残念みたいな方が大きくて、飲み込んだとか消化したとか、飲み下したみたいなそういうイメージとは特に結びつかなかった。 話者 1 なるほどね。あれで食べても食べなくてもいいですよって言われたら食べずに持ち帰りたかった？ 話者 1 食べた 話者 1 食べたんか 話者 2 味わうところまでは感じたの。口の中までは結構感じけど、喉元過ぎたらあんまり感じなかった。 話者 1 なるほどね。咀嚼まで、味までは割と大事だった？ 話者 2 味までは大事だった。あのえん嚥下する部分はあんまり影響がなかった 話者 1 形状も変わらない雨みたいなもので、なめて出しても形状は変わりませんってなったら、それがベストだった？ 話者 1 ペロッて味だけね、味だけ体験して残すってこと？いや別に残さなくてもいいかな。言ってること違うな。 話者 1 かんで飲み込むっていうところにすごく意味があったっていうわけではなかったということですね。 話者 2 なんか消滅してしまったことには意味があった。味わう部分と食べた結果消滅したっていう、 話者 1 消滅したのには意味があったの？ 話者 2 消えちゃって悲しいなってってことはそれだけ私は悩みをめでてたんだなっていう気づきになったから。話者 1 それは他人に全部あげちゃっても同じだった。話者 1 わかんないどうだろう。ちょっとやってみないとわかんないや。 話者 1 味わってみて、なんかすごく感じたこととかあった？あんこなんか混ぜてたよね。 話者 2 もう口の中の時点で消えた感じがあった。飲み込まないでも。 話者 1 なるほどね。なんかその味わうまでは大事だったみたいな？ 話者 2 ここの口の口内までは大事だった 話者 1 ていうのは、味なのかなと思って 話者 2 味なんだと思う。なんかさ、悩みを自分の中でイメージしたときに、言語化するとか、視覚化するところまでは脳の演算処理で追いつくと思うんだよ。でもそれを味に変換する処理って、味蕾はさまないと脳で処理できないんだよね多分。 話者 1 なるほどね。 話者 2 そこは体験しないとわかりようがなくて、想定できないとこだったのかもしんない。だからそこまでは体験の一環として必要だった。 話者 1 なるほど。それは自分が作った味の練り切りが自分の悩みとフィットしてるかどうか、その味的に自分の悩みとしてこういう味だろうなって思ったやつが、マッチしてるかどうかっていうの確認作業としての味わいってこと？ 話者 1 それもあるかも。それもってことは他に何があるんだったんですけど、それは思いつかないけど、確認をした。結構、味、あのシートを書いた時点でイメージが割と確定してたから、 話者 1 味の？ 話者 2 その味をチェック入れ

たじゃん。自分が今思ってる悩みの状態がこれだっていうのがしっかりあったから、それをちゃんと物体として作り上げられたかっていう確認はしたかも。 話者 1 なるほどね。味わってみて、これが同じ東レって感じ 話者 1 でも味見してたじゃん最初に。だからどんな味かは一旦わかってるわけじゃん。 話者 1 確かにねうん 話者 1 けど、一応中に入った私のあんこの味を一応確かめておくってこと？何か悩みなのに意外と甘かったことに、自分の悩みってこうじゃないって思う派閥もいるし自分の悩み意外と甘くて大丈夫なんだみたいなふうに認知が捉え直されるケースもあるんだけど、なんかそういう新たな発見的なものがあるっていうよりかは、これで OK っていうその確認作業的な感じ？ 話者 2 正直思ってちょっと甘かった。味見したの本の端っことかだったから、確かに思ったより甘いなとはなったけど、そういう意味では想定していた味との一致度でいうと 80 パーぐらいだった。でも、だから 100%じゃなかったって思ったかっていうとそうじゃあんまりなくって、自分の想定外の部分はその子の個性として受け入れた。自分で作ってからね、その子に意志はないんだけど意外と甘めの子だったんだねみたいな感じ。 話者 2 やっぱりすごく客観視に近いのかなと思う。面白い。一応聞きたいことは全部聞けた感じなんだけど、最後に何か言っておくこととかあれば、なんか、感想とか気づいたこととか、何かもっとこうして欲しかったとかでも、 話者 2 確かにちょっと材料的にもう難しいけど、丸々1 個食べ切るとか、丸々 1 個食べさせるっていうのもありだったかも。 話者 1 なるほど 話者 2 それの想像は正直あんまりつかないかも。話者 1 丸 1 個食べさせる自分が丸 1 個食べるっていうのもやってみたかった？ 話者 1 私はミニ食べたからそういう意味ではほぼ丸一個食べたんだけど、話者 1 なるほどね。切られる前の 1 個で完成系だから、それを全部完成形として引き受けたいってことかな？ 話者 1 うん。正直若干量あるからさ、結構食べる方としては同じ味がずっとしたら疲れてくるじゃん。変化ある可能性もあるけど、そしたらちょっと感想違ったのかなってのが気になっただけ。 話者 1 なるほどね 話者 2 さっきも言ったけど、食べたときの感じが私は脳であんまりイメージがつかないのよ。見た目はイメージつくけど。だから食べきって感想変わるか聞かれたときに、わかんなくなっちゃう。それを試さないと何とも言えない。 話者 1 いやでも何か他の人とはまたスタンスが違って面白かったです。ありがとうございました。

【C さん　インタビュー】

話者 1C さん。お疲れ様でした 話者 1 すいませんありがとうございます。 話者 1 何かもう一旦一通り自分の悩みを食べるまでやってみてのざっくりした感想から聞こうかな、 話者 1 ざっくりした感想かあなんか、難しいななんか逆に、私の悩みは未熟さみたいなところっていったんだけど、何かそこには若干そのクリエイティブ的な悩みもあって、何かスキル的に足りないよねみたいなのを痛感すると、自分やっぱ幼くてつらいみたいな気持ちが湧くのね。だから、地味に悩みを作りながら結局未熟さみたいなところで、まずチーフとして胎児を選んじゃうあたり、やっぱインプット足りてなくないっすかみたいな気持ちわい

ちゃって、結局なんか、ある意味体現してしまったなとか思ったし、あと何だろう、普通に美味しいくなったていうのは、食べられないと困る気持ちがすごくわかるしそれで残っちゃうと、やっぱわだかまりにすごくなるだろうっていうのもわかるんだが、やっぱ私は自分の悩みだったから、それがもっと良くないものだっていう認識が強かったがゆえに、なまじ美味しい感じになったのはちょっと乖離かもしれないかな。実際とね。表現レベルとして、納得いってるかっていうとやっぱ美味しいのは違うわねみたいな気持ちがあるから、ちょっとそこは気にはなってる。 話者 1 自分がどれぐらいその表現できたかっていう部分だと、味の面ではかなり低くついて、何%ぐらい？ 話者 1 何パーだろう。半分ぐらいかな。 話者 1 なるほどね。それはなぜ胎児を選んじゃ駄目なの？ 話者 1 ありきたりじゃない？なんだなんかいかにもね。子供だねっていうところ直球じゃん 話者 1 なるほど。作りながら自分の悩みをもう一度再確認してた？ 話者 1 でも作ってる段階はもう何かその時間がないっていうかさ。もう 60 分で作るっていうので事前に考えてきてねみたいなのだったじゃん。だから、構想練ってる時点でこれしかないけど、これでいいのかなっていうのは、そこで感じた。もう作る段階はもうこれを作るしかないみたいな感じ。 話者 1 その作ってる段階は設計図通りに作ることに。割と集中するというか？ 話者 1 でも一応オリジナリティじゃないけどこだわりは入れ込んだから。なんか着々とやったわけではないし、そこでの発見じゃないけどさ、楽しさみたいなのはあったよ。 話者 1 それはその作業としての楽しさってこと？ 話者 1 作業としてもそうだし悩みの表現とか分析みたいなところで、私はよほどよどませたいんだとか思ったし、そういう振り返りみたいなのはあったかもね。 話者 1 それは表現の部分でなのかそれとも悩み、私の悩みよどんでるんだっていう方の認知に近いってこと 話者 1 再認識みたいな感じかな。 話者 1 なるほどね。それは客観的に見たみたいな？ 話者 1 客観的に？ 話者 1 何か作ることで悩みを客観的に捉え直したみたいな意味に近い？ 話者 1 どうなんだろう。いや、それはちょっともうそういうと盛っちゃうかな。結局この悩みが根深すぎてしょっちゅう思ってることだから、今さら何か改めてっていうことでもないんじゃないんですよ。なんだけど何か形にしたことはなかったから、その表現するならこういう感じっていうところでいつもと違う方向性で見た見たいなとこはある。話者 1A さんの話で私がちょっと言ったことと近いんだけど、なんか A さんの話って、姉との確執みたいな、許したいけど許せないみたいな気持ちとかっていうとありがちなんだけど、形で出すってなると、いつもとアウトプット違うから、ちょっとアプローチが違う分、なんだろう、感じ方に変化が若干あるみたいな感じ。 話者 1 それが自分に対しても起こってて、甘ちゃんってのはわかったけど、レベルとかを何かどこまであまちゃんレベルを出すかみたいなところで、いつもと違う見方はしたかな。 話者 1 伝わってる？ 話者 1 何だろう、どういうことなんだろう。でも、そのなんていうの話すだけじゃなくて作るみたいなことで別のアプローチになってて、見え方が違ってるのはわかるんだけど例えばそれが粘土だったりしても同じなのかなとか？ 話者 1 でもそれはそうかもね。絵にしてしてくださいって言われたら、また違う意味で、この絵の具を混ぜた方が今の気持ちに近いなみたいな新

しい整理の仕方じゃないけどさ。アプローチみたいなのはあったと思うし、今回はねりきりでなおかつ使う色とかも決まってたわけだから、それをもとに、それならどれが近いかみたいな作業っていうか 話者 1 何かと粘土との違いは味があることかなと思うんだけど、みんなその画材の一つとして味を選ぶみたいな工程があって、何かそこの違いとかはあったのかな。 話者 1 なるほどね。食べれることに意味があったかみたいなことか？ 話者 1 なそうだね。その絵を書くみたいな表現と、また粘土で作ると、そのこれを作るの違いにその味を考えるみたいな 話者 1 なるほどねでもそれはちょっとあったし、そういう意味では自分のあれが甘えみたいなとこだったから甘いお菓子みたいなのは結構あってて、それも、絵だけだったらできない表現の一つとして面白かった。 話者 1 なるほど。ありがとうございます。ちょっと順番に最初から順をおいたいんですけど、質問紙に回答してるときに、何か感じたことがあったりしますか。 話者 1 感じたことか。 話者 1 なんか結構さ、書きにくかったみたいな。 話者 1 でも悩み自体は、悩みってか何かこのモヤモヤ自体は向き合ってはいたっちゃいたというか、なんか浮上してくるものであったわけよ。上がってくるたびにボコボコにしていたんだけど、でもなんかそれを取り上げてしげしげと見ることはないっていうかさ。本当だけでつらいとか言うけど親とか友達とかには、それを作品にしようみたいな、ことはしてなかったから、いざそういう、形でいうとどうなのみたいな。ある意味、カウンセリングじゃないけどさ、そういう形で聞かれたことはなかったから、ある意味面白いし、ちょっと難しいなとは思った。 話者 1 なるほど。 話者 1 大丈夫、わかってる？ 話者 1 わかるわかるわかる。いやそうだよね、普通に生きてて自分の悩みを形にしようとかは別に思ってないわけだから、それがすんなりできてる人の方が、面白いと思うっていうか、珍しいと思うんだけど、 話者 1 そうそう 話者 1 今回は C さん以外はみんなすんなり。 話者 1 それ不思議だよな。なんか、言語化できてるから基本。言語化はよくする。それはなんか結局未熟さだよねだったりとか場数を踏んでないからだよねとか、そういういろんな論理とか言葉とか、それは何ていうのかな、甘えだよねみたいな感じを当てはめるだったり、経験が足りてないっていうのは何か理論を当てはめるじゃん。そういう言葉による分析みたいなのはやってたけど、色で言うと何色みたいな聞か聞かないじゃん。ふつう。 話者 1 そうだね。確かに、何か色とか形とかをすんなり出せてる人って割と感情から引っ張ってきてる人が多いのかなっていう。怒ってるトゲトゲとかそう明るく見せてるから暖色系の色合いとか、なんかその理論でぼこしてるからこそ、色？みたいな 話者 1 いろとは？みたいなのもあり、結局そこで私感性的なところに行けずに現実にやっぱ即したところはある意味私らしいと思ったんだよね。そこで何て言うかな、なんか泣いてるから青ですみたいな、それもちょっと結局理論か。何かその B さんとかは結構感情的というかさ、抽象的な意味で色をピックアップしてた印象があるんですけど、私は結局現実、自然のそっくり摂理に即して色を選んでる。子供だよね。てことは胎児だよねってなって、てことは赤でしょみたいな。それを濁らせるみたいなところとかはあるけど別にそこで、抽象的っていうよりは、何かあるものを再現しているっていう感じが、してる。 話者 1 表現としてはすごく自分らし

さがあるっていうか 話者 1 そうだね。うん。うん。 話者 1 練り切りに対して、自分から出た悩みであるみたいなことに、結構一致率はあった？ 話者 1 どういうことだ、 話者 1 何ていうのか自分の表現だからさ、うん。なんていうのすごい自分の物感があるっていうか。話者 1 出てきたものに対して？難しい。なんかそのね、自分がやろうとしたことが、最後そんな上手くいかなかったのが、あるからでも胎児作った瞬間は結構なんか、このきもさはありって思ってた。それを包むときにちょっと潰れちゃったからね。そこは、最終アウトプットは、もうちょっとなんていう生命的なグロに行きたかったんだけど、そっちはいけなかったから。でもプロセスとしては満足はしているとこもある。 話者 1 なんかさ、C さんは結構さっきの話だったんだけど、普段悩みは話すみたいな、言語化するみたいなこと言ってたんだけど、なんか普段はそういうふうに悩みと向き合ってるのかな、そういう普段知っている悩みとの向き合い方と比較して何か違いとかはあった？ 話者 1 でも、そうね。言葉っていう普段の道じゃない道でそんな意味にたどり着こうみたいなのは、全然違うところかな。でもねこれ若干脱線なのかもなんだけど。それは面白かったんだよ。その別の形を与えようみたいなところは面白かった反面、結局それにうまく答えられていない気はしているんだよな。なんかね結局抽象的な部分で核を拾えたらよかったのだが、なんか安直なところに走ってしまったのは向き合いきれてないのかもしれないとか思ったり。それでいいのかなって、そんな簡単に表現してしまっていいのだろうかっていう。それこそさ言語化でもさ、言語化することで落ちる情報量というか、なるほどとされる曖昧さっていうのはあると思うんだよね。なんかそれって怒りだよねって言うと、怒りなんだけどってなるし、でも怒りと近いけど苛立ちみたいな方が強いよねとか言っても何か何個かワード出して増やしてでも拾いきれない範囲ってあるじゃん。言語化でもそれと同じような感じで、その表現の段階で例えば、そうね A さんのやつとかでいくとトゲトゲみたいなので、苛立ちみたいなのを表そうっていうことを選んだとして、それに落とし込んでしまっていいのかみたいなのが自分の中だとある。それは、使ってないけどさ、私はそういう表現方法は。 話者 1 なるほどね。言語の方が、より慣れてるから拾いきれる範囲も大きい。 話者 1 いや、どうってことどっちもどっち。言語でも拾えないし、逆にその抽象化の方が、うんでもそうかな、そうかも。具体化、立体物に起こしますみたいなのの方が慣れてない文なおのことよくある手法みたいな。知ってるやつを作ってみようみたいな方に近づいちゃったような気はしている。 話者 1 なるほどなるほどなるほど。作ってるときに、それを自分の悩みだっていうのはどれぐらい意識して作りましたか？ 話者 1 どうだろう。どのくらいっていう表現が難しいけど、 話者 1 なんか全く意識しなかったって人も多分いるんだよね自分の悩みだってよりもこういうふうに作ろうとした技術的な面を何か楽しんで粘土的な感じで作ってましたみたいな。 話者 1 なんか半々かな。でもやっぱあれかもな。慣れてきたら、そこにいけるのかもしれないとは思った。てか例えば色の調整みたいなところとかだと結構もうわかりやすいじゃん混ぜればいいし、ここをちょっと足したら、今の抱えているものに近づくかもしれないみたいなのがわかりやすいからそういうときとかはちょっと向き合ってると思う。

話者 1 より粘土に近い胎児作ってますみたいな胎児の形の形成のときとかは、可愛くなっちゃったら駄目だなとかって思うのは、やっぱその自分の悩みに対する認識と向き合ってる瞬間だから、そういうときは自分の悩みだなって思うかも 話者 1 なるほどなるほど。食べたときは食べにくかったとか、それとも割り切って食べ物みたいな感じだったとか、何か感じたことはありますか？ 話者 1 割り切って食べ物に近いのかな。うんうんうん。美味しくなっちゃったしみたいな。でも断面がちょっと黒くなったのは、よしみたいな。でも、そうねよしとは思う。ただそうはなるような気もしていた。結局その君の作った脳練り切りとかもさ、断面ちょっとグロくなるじゃん。ああいう感じにはなるよねっとは思ったから。ものすごい感動ってわけじゃないけどでも、そうは言ってもやっぱり、切ってみないとわかんないっちゃわかんないから、実際そうなってるのを見て、胎児感は出たかもって思って良かったし自罰的な意味では胎児切ってるからめっちゃ切ってやろうっていう気持ち。 話者 1 じゃ粘土で作ってきるまでの工程で同じぐらいの満足度を得られる？切ってはい終わりっていう。食べないっていう。 話者 1 食べない？それはね食品ロスへの気持ちがあるから無理だな。あ、粘土だったらってことか。 話者 1 そこに食べるっていうのがあることで何かいみを意味を持つ？ 話者 1 あっ消えるのはいいよね、目の前から消せるのはいいかも。残っちゃうと、別に食べたことで、残念ながら、それを消化できましたみたいなのがあるかっていうとそれはそんなにはなくて、どうせまた再発した時というか、また自分の甘さみたいなところにぶち当たったら、この感情はもっかいくるだろうっていうのはある。あるけど、そうね、今回のプロセスというかさ、今向き合う段階として残ってたらすごい嫌だなと思う。話者 1 それは他人に全部はいどうぞして食べてもらっちゃうでも同じ？ 話者 1 面白いね。確かに他人か。他人にお出しできるようなもんじゃないってなるからそこは抵抗がある。それで言うと他の人が食べますっていうことは全く考えてなかったな。 話者 1 結局食べてもらったわけじゃん。他人に食べられちゃってどういう気持ちだった？ 話者 1 でもそんなに変わらなかったのかもしれないね。まずそもそも私が作ったやつに対する感想として、高級和菓子っぽいっていうのが、そうかっていう腑に落ちなさが強くて 話者 1 なるほどね 話者 1 なんか全然そんなに綺麗じゃないじゃんっていう。 話者 1 見た目の綺麗さでは多分ないんだけど、 話者 1 パッケージングってこと？なんか間に物を包むっていうのがってこと？それともお皿なのかな？ 話者 1 いや、あれはね、多分色合いとか 話者 1 色こそ何か話者 1 おしゃれな感じだった。おしゃれなのか、何か逆にパキッとした色合いだった他の 2 人は粘土感もあったんだけど、 話者 1 確かにね。 話者 1 そうそう、粘土か見まがうみたいな感じもあったんだけど、よりそこに何ての微妙なラインでおしゃれな色合いと、何か、何かと認識してないけどデザイン性の複雑さが相まって、悩みを知らない他者からは一見すごい高級層というかよさげに見えたのかも 話者 1 そうなんだ、全然なんか微妙な形になっちゃっちゃと思ったけどね。その辺もある意味認知歪んでんのかな。 話者 1 うん。歪んでそう。どうなんだろうすごい、ある意味めちゃくちゃ自分の悩み汚い、良くない、みたいな感情が混ざってる感じはあるのかもしれないと思った。その他人にお出しできるような

ものではないとかも、2個の意味があると思ってて、自分が作った和菓子だから、あまりその和菓子初めて作ったし、人に出せるような代物じゃないっていうのもあると思うけど、込められた意味的なこともあるのかな？ 話者 1 でも造形への満足度じゃないかな。どっちかっていうと、完璧主義者だから。なんかさ、普通にインスタに載せられるぐらいのレベルにならないとちょっと出せない。人に提供するものではないと思っちゃう。 話者 1 なるほどね。じゃあさ、さっき消えるって話の中でさ、またこの悩みって上がってくるよね、戦うよねみたいな話があったと思うんだけど、これを例えば日常の中で取り入れましょうみたいな話になったとして、毎回ぼこすときに作って食べましょうみたいなことになったとしたらそれはどういう意味を持つと思う？ 話者 1 どういう意味を持つ。どういう意味を持つがわかんない 話者 1 何だろう。それは何か自分の悩みとの向き合い方に変化をもたらすのかみたいな。単発でやっても、どうせまた上がってくるしっていうことなら、どうせまた上がってきたときにも同じように食べていったら、徐々に何かが変わっていくのか？ 話者 1 変わるかもとは思ったんだよね。何かイメージを具現化したことはなかったわけですよ今まで。形を与えたことはなくて、その悩みに、結局その自己嫌悪のところに当たるから、今まで何か脳内妄想で自罰的に接していたのは自分だったわけね。超意味わかんないと思うけど、自分の後ろに 3 カメがあります。FE わかる？かわかんないか。手が出るんだけど透明なてみたいなのが出るんだけど FM ビートの中のキャラが。なんかそういう感じで自分がいて、その 3 カメがいて、自分を 3 カメぐらいの視点からワーッて埋めたいみたいな気持ちが湧くんですよ。死にたいみたいな気持ちになったとき恥ずかしすぎて。何かわーってなったときとかに若干 3 回目ぐらいの視点から、今の自分を見て、今の自分を痛めつけたい欲みたいな気持ちになってたけどそれがある意味ではイメージの部分だったんですよ、今まであった。なんだけど、甘えてる自分っていうのを、見た目としては今の自分に仮託してたのね。でもそれを今回和菓子のあの胎児みたいな感じにしたことによって、今後あいつになるかもしれないとは思った。痛めつける対象が。形代変わるかもしれない。 話者 1 自分から今回作った胎児に変更ってこと？ 話者 1 変更かも。でもこの辺に結構大きかったんだけど。それがもうちょっとちっちゃくなって、なおかつ練り切り触る感覚に近い方で、うわーってなるかも 話者 1 より柔らかくグジャグジャみたいな？ 話者 1 より柔らかくぐじゃぐじゃになるし、あの胎児を触ってた感覚とかで今後いじめたくなるかも。 話者 1 なるほどね。いじめるのは変わらないいんだ。 話者 1 そうそうそれのスケールというかそのときの脳内感覚みたいなので、思い出すのはこっちがくるのかもしれない。わからないけど。 話者 1 なるほどね。何か参考文献的なものの中にはさ、抗いがたいものを作って、それを歯を立ててかじることで痛めつけるみたいな。悩みをなぶって勝つみたいな意味合いを持たせてるものとかもあったんだけど、そういうふうにはなっていかない？ 話者 1 勝てるかってことか？ 話者 1 つまりその想像してることをリアルでやってるわけじゃん。胎児を痛めつけて食べる、噛むみたいな。そこにはそんなに意識的ではなかった？そういう意味は持たなかった？ 話者 1 それは実際食べるときってこと？実際食べるときは理屈で考えちゃっ

たかもしれない。頭の中ではこれをバラバラにすることで私の悩みをバラバラにするみたいな、疑似的意味を持たせることは可能かもって思って、一応切りましたけど、それによって成仏したかっていうと、なぞったなとは思うけど、実感として、痛めつけてやれたぜってなったかっていうと、ちょっと違う。脳内の方が潰せるみたいな。 話者 1 なんか難しいですね。なるほど。他人に食べてもらったときの話したっけ？食べてもらうことはあまり想定してなかったんだよね。それで粗品をお出ししてみたいな気持ちになったんだよね。 話者 1 味見だから許せるみたいな感じ。 話者 1 丸々1 個あげるとすると何か意味変わってくる？ 話者 1 向こうも困るだろうと思う。 話者 1 そういうこと！？なるほどね。自分の悩みを向こうに引き受けさせちゃったみたいな気持ちは全然ない？ 話者 1 ちょっと嫌な言い方をすると、自分の悩みが伝わってなかったから、あんまり意味がないかもって思った。何かいいものだと思って食べられたところで、そこに意味はないような気がしてしまった。話者 1 自分の悩みを解説する前に食べられたからってこと？ 話者 1 それもある。でも解説してから食べてもらったとしても、その解説がふに落ちてなくて、なおかつ私の悩みも何かなるほどねって感じじゃないんだったら、あんまり結局意味はないのかなって、だって相手にとって意味のないもの食べてるわけじゃん。意味がないって言うと強いけど。結局その場合は彼女らにとってはただの練り切りでしかないわけで、 話者 1 なるほどね。逆に他人のを引き受けたときも、私には関係ないことみたいなふうに思うのか、味からその人の悩みに共感しようとするのかみたいなのは？ 話者 1 共感まではいけなかったかも。クイズみたいな感じでさ、なんか当ててみようみたいな感じだったから、どういうことだろうみたいなのは考えたけど、一緒に消化してあげようみたいなとこには行かなかったかな。探る方が強くかった。 話者 1 なるほどね。さっきいろんな話の中で面白いなと思ったのは、何か味みたいなものは 100 パー受け取れるから、その人が作ろうとした味を、絵画だったら解説がないと見え方って結構変わってきちゃうけど、味は 100%受け取れるから、その人の思考を覗けるよねみたいな。 話者 1 なるほどね。確かにね。 話者 1 だから解説の前後関係なく、それはそこに存在してるっていうか、作ろうとした味は前後関係なく 100 パー受け取られていく。だから共感っていうか、その人の思考を、より深くわかろうと出来たみたいな感想があった。 話者 1 なるほどな。でもそれで言うと私が自分の味の表現レベルに納得いってなかったから、他の人のを食べても、そんなにそこに表現されてると感じられなかったかもしれない。 話者 1 なるほどね。つまりこのワークショップの問題点として、味の少なさだったりとか、元々の味が甘いということでの自分が表現したい味の表現しきれなさとか、造形の難しさとか、それらが相まって、全体的に悩み自体のクオリティが低いのではみたいな、ことが影響してるのかな？ 話者 1 私にとってはそうかな。でも生っぽいのはいいなと思ったし、感覚としてのセラピーみたいなのはあるかもって思って、なんか普通に指先でさ、粘土とか触ってっていうのは無心になれるじゃん。それはいいなって思ったし、例えば何かレゴブロックを使って悩みを表現しましょうとか言われたとするじゃん。最後そのレゴブロックは粉砕しますみたいな。トンカチで粉砕しますとかさ。みんなでそのパーツを分け合っ

て持って帰りましょうとか、そういう感じに落とし込まれてたとしたら、また違うというか。話者 1 また違うのか。 話者 1 うん、それだとそんなに繊細じゃないなと思うから、 話者 1 それはレゴブロックの特性と練り切りの属性の違いってこと？ 話者 1 うん。柔らかさとか、実際触ってどうかみたいなところ 話者 1 粘土とだったらどう？ 話者 1 粘土ってあんまりイメージがないんだよね私の中で。何か臭いし、汚いじゃん。何か手について嬉しくなくない粘土。それは人によるかな？ 話者 1 でも同じ状況でやるから、手袋して粘土。 話者 1 や手袋して粘土でもだよ。 話者 1 それは紙粘土油粘土問わず？ 話者 1 問わず、うん。あと柔らかさ問題もあるしね。何か練り切りの方がより繊細だし、混じり合うみたいな曖昧さがあるのはいいなと思った。紙粘土って結構さ丸めてもしわがは残るイメージが私の中ではあって、油粘土もそうかななんか、まん丸を目指すんだけどいつも、なんかでもガサツだからさ、なんか途中で足したいとかって無理やり足したりとかしててめっちゃ丸めるんだけど結局丸にはならないみたいな。最後ちょっと地割れみたいなのが残るみたいなのがちょっと好きじゃないんだけど、練り切りは結構綺麗に丸められるじゃん。融合度が高いというか。 話者 1 融合していくよね。 話者 1 その柔らかさとか、繊細さみたいなのは、良かったかな。 話者 1 なるほどね。結構ベタつくとかあったと思うけど、それでも練り切りの方が、繊細というか、いいイメージがあるってことかな。 話者 1 そうだね。なんか消化のされ方が明確なのもある意味良かったし、本気になれたというか、なんかやる気出せるじゃん。これ食べれると思うとさ。なんか紙粘土とか油粘土って、結局ゴミなのよ特にうちの家とかだと捨てられがちっていうか。図工の経験じゃない紙粘土、油粘土で何か作ったりとかするのって、それで作った作品ってその瞬間は一応、作りましょうって言われるから頑張って作りますけども、完成して大体満足しないんだけど、完成して大体微妙ってなるし、なおかつ微妙ってやつを持って帰ってつまで置いとくのかとか。 話者 1 捨てられないしね。話者 1 うん。でも割と捨てるんだけど。私物捨てられないからさ。捨てるのもうなんか微妙に Pain みたいな。捨ててくれって思うけど、自分で捨てたくはないみたいな。何か残っちゃうっていう嫌さがある。でも逆に練り切りはこの後食べますみたいなのが明確だから、そのストレスはあんまりなくてよかった。 話者 1 そうだね、消滅するからこそ価値がなくても許されるというか、紙粘土とかは作品として価値がないと厳しくなってきちゃうけど、ってことかな。 話者 1 そうだね。多少失敗してもいいやみたいな気持ちはある。紙粘土とかだと完成ですってなって、完成した後に飾られてしまうかもしれない。でも練り切りはもうさ、すいませんでしたみたいな感じで回収していけるじゃん、自分で。それはいいよね。ごまかしがきくというか。写真は撮るから残っちゃうんだけど。 話者 1 日常の中で取り入れていくならみたいな話の中で、粘土を引き合いに出したんだけど、食べなきゃいけない賞味期限みたいなものがあるから、1 回表現した感情を回収しなきゃいけない。また次に作るときは、前に作った時のものがない状態で作るから、自分の気分が変わって悩みもどんどん移り変わっていくのが固定化されない。そこにないから固定化されないし、食べなきゃいけないっていうその時間感覚があるのが、ねりきりの特殊な点だよね。時間的制約のある悩み

みたいな。さえの悩みは変わっていくのかかわからないけど、変化のある悩みだとそれをアウトプットして次の瞬間にはもう変わってる可能性があって、それを賞味期限が代弁してくれてるっていうか。 話者 1 なるほどね毎日やるってこと？ 話者 1 そうだね毎日やるとか、その悩みに悩んだらやるとか。 話者 1 でもその場合悩み自体は変わってなくても、アプローチは変えたいと思うだろうな。普通に飽きるでしょ。同じ味と同じ形を作り続けたら飽きる気がする。だから変えていくと思うし、それはそれで面白いのかもね。変えたいと思うからさ、今度はたい胎児辞めるかってなったらじゃあ次どうするかみたいな。新しい向き合いは生まれるかもね。それは多分言語化だとできなくて。言うなれば、ちょっとずれるけど英語で言ったらどうって感じになるかもしれない。もう日本語の別の表現で言ったらどうってのはもうやり尽くしてるからさ、言語化って何回やってもどうにもならないみたいなときある。言語化で言ったら今度英語書いてみようかみたいな。毎日日記をつけるみたいなときに、日本語で書きます、次悩んだときに今度英語で同じこと書きますみたいなのに近いのか。同じ練り切りで同じ練りきり使ってるから違うかもしれないんだけどなんか、胎児っていう言語を使って胎児みたいな見た目の方向性っていう表現方法で表現したラこうです。今度もっと抽象的な色と形だけで表現するとしたらこうですみたいな。それが英語バージョンみたいなさ。使ってない表現方法で向き合ってみたらどうなりますかみたいな。向き合い方ができるから、また違う消化の仕方になるのかもねと思った。 話者 1 なるほど、 話者 1 私純粋に毎回やったとしたら、それは日記とかさ、それこそ粘土でやったとしても、同じように思うかもしれないけど、定期的にやることで、一生同じことで悩んでるなっていうのが可視化されるのはあるかもね。 話者 1 なるほどね。客観視みたいな。 話者 1 客観視みたいな。でも食べちゃうからちょっと違うのかも。 話者 1 そうだね残り続けるわけでは全然ないからね。 話者 1 例えば嫌なこと日記みたいな感じでさ、反省日記みたいな感じでつけてたとしたらどんどんたまっていっちゃって、1 冊使い切ったときに振り返るとかをやりそうなもんですけど、練り切り作って食べますみたいな感じだったら、どうなんだろうね。写真は撮りたいと思うかもしれないけど、日々のルーティンみたいな感じで取り入れていったとしたら、そんなにわざわざ記録に残さないで食べちゃうんだとしたら、瞑想みたいなのかなって思う。 話者 1 瞑想みたいになるのか。瞑想はさ、日々さ、でもわかんないわ 話者 1 定点観察みたいになると思うんですよ。日記にしますとか。例えば残る形で向き合っていきますだと。ゆうて私結局日記書いたとしてもさ、なんかこれ後で振り返ったらおもろいなと思いながらも振り返らないということは多々あるのですがでも振り返れちゃうわけだよね。直前の 1 回とか見返す気がするんだけどもしそのねりきりで毎回毎回、作って食べますというプロセスを踏みます。なおかつ記録をしませんとしたとしたら、瞑想じゃない？その 1 回完結して、正確に次に引き継がれないっていうかさ、瞑想じゃないか、なんて言ったらいい？それをやることに意味があるって感じ。 話者 1 なるほどね。蓄積されていくものではないってことか。 話者 1 そうそうそうそう。毎回向き合いますっていう時間になるみたいな感じかな。 話者 1 でもそれによってその悩みに対する感情だったりとか付き

合い方みたいなものは変わっていくの？ 話者 1 変わっていくのかもと思う。もしやったらだけど、それは毎回その向き合う時間を取りますっていうこと自体が、もしやってたら、変わっていくもんだとは思うから、ねりきりを作るからすごくそうですって言えるかはわかんないけど。でも何にもなしに考えるってのはやっぱさ、難しいから、例えばワークショップじゃないけどさ新しい瞑想じゃないけど、みたいな感じでやっていくとしたら、 話者 1 時間を区切られるっていうか、悩みを考える時間として取られる 話者 1 悩みと向き合う時間として大義名分ができるというかさ、作らなきゃだからやりますかみたいな感じでちゃんと時間取ってやれる。なおかつ、見せる物じゃないっていうか、向き合うことに意味がある感じが強まる。内省の時間っていうか。 話者 1 今回は他の参加者がいて他の参加者に話すフェーズとかもあったわけじゃん。そこはあまり意味をなしてないっていうかっていうか、一人でやってても変わらないかな？ 話者 1 私なんか普通に人がいると喋っちゃうから、なんかでも照れだよね。それによって共有してるっていうよりは、何かやっちゃったんだよねみたいなことを言うことで、アウトプット微妙だったとしても許してみたいな、パフォーマンス的なところが多分あって、自分にとっては。だから一緒に取り組んだからっていうのはあんまりなかったかも。 話者 1 一緒に取り組んだというか、今回のワークショップはいっぱいいろんな要素があって、ビジュアライズ化することで客観視、制作することで手を使いながらの客観視、さらに他人に悩みを話すっていう普通の相談パートみたいな。さらに食べるっていう体験。なんかどこをとっても割とケア的な何かが起こってもおかしくはないんだけど。 話者 1 分析むずいな。 話者 1 そうそうだからケアが起こったって言われたらどこで？って感じがあるんだけど、だからそれを粘土でやるならどうですかとか、その他の要素を抜いたものでを聞いてるわけなんですけど。今 1 人でやるみたいな話があったから、他人に話すみたいな部分が関与してないのかなみたいなふうに思ったっていう。 話者 1 そうだね。今回の場合は特にあんまり理解されてないなってすごい実感があったのもあったし。そんなに他人は関係なかった自分との向き合いにおいて。 話者 1 なるほど。なるほど長くなってきたので最後にするんですけど、最後に悩みを食べるっていう手法について何か気になったこと、思ったことがあれば教えてください。 話者 1 気になったこと、 話者 1 他のケアと比べての違いとか。 話者 1 食べる消えるのいいよね。なんか、忖度した感情というか、よくある解釈としては消えることで消化されてすっきりみたいなのがあるあるな感じだと思うんだけど、それはないものの、向き合って、問題なく終えることができるというか、後片付けが綺麗にできる感じなのはいいよねって思う。その例えば紙に書き出しますみたいなプロセスだと、私それやってますけど。何か残っちゃうからさ、普通にこれこの後どうするって思うんだよ。 話者 1 後腐れなく表現はできる環境だったと。 話者 1 そうですね後腐れなくっていうのはマジでそうだね。表現として。あるかも。 話者 1 なるほど。その悩みに対していろいろコネコネしたりすることで愛着が湧いたりとか、自分の手の内で作れる範囲でしか表現はしてないけど自分の手も中で表現したから、もっとすごい大きい世界平和とかを悩んでる人だったらさ、作れたことでちょっと手の内に収まってる感じ

があるかなとか。 話者 1 逆にだからさ何回か潰したいってなっちゃったよ。まさによく自分がやってることを何か謎に再現みたいな感じだったから。面白かったけどねそういう意味では。めっちゃ自罰傾向強いんだなとか思った。胎児の体作ってるときにさ、足を作るために、切って足作ったんだけど、これって別に引っぱって作ってもいいんだけど、なんか切って作ることに快感はあった。歪んでる。擬似的リストカットみたいな感じ。でもそれを、いかにもやっちゃうと、ちょっと酔ってる感があって、抵抗があったんですけど。いかにもっていうのはいわゆるジンジャークッキーみたいなものを例えば作って、それの頭と腕と足をおりますみたいなのとかだとまんまじゃねえかと思って引いちゃうし、なんか参考とかで多分チェンさんから紹介されてた DV の人のパン食べるみたいなやつあったじゃん。私あれちょっとくさすぎと思ってて。すいませんねインタビューでくさしてるのどうかと思うんですけど、あれちょっとやってんな感が強かったけど私の中だと。あんなには酔えないと思った。でも意図しない形でそれを楽しめたのは、逆張り思考の強い私でも、すんなりやれたから、楽しかったね。 話者 1 思わぬところで楽しんでいただけてよかったです。とりあえずインタビューは以上になります。ありがとうございました。

【D さん　インタビュー】

話者 1 ささっと行きます。 話者 2 はい 話者 1 ワークショップありがとうございました 話者 2 こちらこそです。 話者 2 全体的にざっくりとした感想を伺ってもいいですか。 話者 2 ざっくりとした感想としては、何か練り切りで自分でやってどのくらいできるか不安やったけど、結構なんかキットも用意してくれてたこともあって、結構かわいくできて、嬉しいかった。 話者 1 いや良かった。色にこだわりありそうだったからさ、時間内に作れって本当に良かった。キットは何がポイントだった？ 話者 2 色、これはアンケートをもとに用意してる色？ 話者 1 そう。アンケートを見てって感じ。 話者 1 そうだから、言ってた色作ってくれてて、やりやすかったです。 話者 1 普段は人に話すことが多いとかどういうふうに悩みと向き合うことが多いですか？ 話者 2 ほとんど喋ることはなくて自分どうするかみたいな感じかな。 話者 1 うん。うん。自分の中で考える？ 話者 1 そう。 話者 1 それと比較して、悩みを作って他人にも食べてもらうみたいなのはどういう体験でした？ 話者 2 やっぱり何か開示っていうか、あんまり悩み相談する習慣がないから、人に何かあなたはこういうことで悩んでるんですねみたいなことを知ってもらえるのが結構、なんていうか、悩みを分けもつじゃないけど、それこそ 2 人も何かダラダラ感を食べちゃったかもみたいなことを言ってたけど、なんか、結構それは自分の中でも、策略としてあって、ちょっと、何かちょっと重みを分け持ってもらえてよかったかなみたいな。 話者 1 なるほどね。分け持ってもらえた感覚は結構あった？ 話者 2 そうね。なんかやっぱこのダラダラしちゃうのさ自分の一人暮らしの部屋の中やからさ、ほとんど誰にも知られることがないわけよ。だから何か私結構昔から何か大丈夫な人に見られるんやけど、全然大丈夫じゃなくて、結構なんかギリギリ状態で生きてるわけですよ 話者 1 もう終わりかけ 話者 2 そうそう。

いつもギリギリで生きていたいから。そうだから何か、部屋の様子を監視カメラで見てもらうのは違うから、何かこの練り切りの形で見せられてよかったかなって感じ。 話者 1 それはさ、確かに他人に共有するっていう意味では話すんでもいいじゃん。私実は大丈夫な人じゃないんですって言語で言うのとは違う？ 話者 2 違うかな。やっぱ大学来たら普通になんか椅子座ってるしさ、こんなヨギボーにダラーみたいなできる場所ないしさ、なんか実際のありさまを見てもらうみたいな意味では、言語よりも粘土とか、取り繕う余地がないからさ。いいかなと思った。 話者 1 なるほどね。ビジュアル化されてるってこと？ 話者 2 そうです。 話者 1 じゃあ写真を見せながら私こうですみたいなのとは？ 話者 2 それでもいいのかもしれない。が恥ずい。 話者 1 確かにね。なぜそうしたみたいなのもあるし、これはそれを許容する場所を作ってるのかもしれないね。 話者 1 あとは、種明かしをする前にいろいろ話をするっていうのが、さっき言った言語は一義的だっていうのがあって、写真を見せながら私ダラダラしてるんですって言ったら、こういうふうにダラダラしてるんですねが固定化されるけど、それをわからない状態でああでもないこうでもないって言われるていうことにも結構何か意味があったのかなっていうふうにお話を聞いてて思った。 話者 2 ちょっと戻るけど言語で言うと、信じてもらえないみたいな。言っても何か大学の教室でいやダラダラしちゃうみたいに言っても、何て言うの、いや、そうは言っても、みたいな。ちょっとしてるやんみたいな。いやいやいやいやみたいななるからさ、じゃなくてなんか粘土とか練り切りでやると、なんていう。生々しさが出るから信じてもらえやすい。 話者 1 確かにそこまでしてるしみたいな？ 話者 2 うん。なんか、ちょっと話ずれるけどなんかこれ、結構人に言える悩みでお願いしますって感じだったけど、何か例えばその信じてもらえるもらえないみたいなんので、性暴力とかってマジで信じてもらえないっていうことがものすごく問題になってて、加害者に対して、加害者もこういう言い分があってみたいな加害者の方を持たれがちみたいなのがすごいあって、性暴力があったこと自体をし、認定してもらえないみたいなのがすごいあって、そういうときに言葉っていうより、こういう何か練り切りとか粘土とかでもいいけど、物として作って、さらに何か、例えば警察官に食べてもらう食べさせる口に突っ込むみたいにしたら、もうちょっとあの証言の信じてもらえやすさみたいなのは、上がるんかなとか思った。 話者 1 なるほどね。やっぱそこに、具現化してるから、それは 1 個一つ事実になってるから、信じてもらいやすいのかな。 話者 1 いやなんか結構粘土っていうお話が出ててすごい性質は近いなと思ってて。でも食べられるか食べられないかっていう意味で、結果としてそこに残り続けるか、捨てるわけではないけど、消えるかみたいな違いが結構あるなと思ってて、このワークショップは食べるっていうふうにやってるけど、粘土じゃなくて練り切りでやるっていうの違いはさ、どこにあると思う？ 話者 2 やっぱり粘土とまず全然違うと思うし、それはやっぱ食べることができるのがでかいかな。それは目の前から消えるっていうことよりは、自分の中に吸収できるっていうことかな。 話者 2 なるほど自分の悩みを食べて、自分の中に取り込んだみたいな気持ちとか、逆に他人のを食べて他人の悩みを自分の身体にしたみたいなイメージはあったりする？

話者 2 そうね。他人の悩みは結構それが強かったかな。やっぱ自分の悩みは意外性っていうとこはなくて、味を設計したのも自分やし。だから、うん、この味ねみたいな感じ。 話者 1 へえ他人のは、自分の栄養素になるというか身体になるっていうか取り込むみたいな、その感覚があったのは、意外性みたいなものが関与してるってこと？ 話者 2 そうね。味としての意外性もだし、悩みとしてもやっぱり他者の悩みやから、何か血となり肉となる感覚は、ないねんけど、胃に入って腸に流れていくんでしょうねみたいな。 話者 1 なるほど、自分のものよりちょっと異質だからってこともあるのかな。異質なものが入ってきたみたいな。 話者 2 そうね。完全に溶け合うことはないけど自分の身体と。なんか、限りなくめちゃくちゃ抱きしめてる感というか、 話者 1 なるほどね。へえ、 話者 2 粘土にしたら多分持つだけになる。握ったりとか。それとやっぱもう一歩先を行った身体接触なのか 話者 1 確かに内側に入る。超話ずれるけど、好きなものを食べたいみたいな、最大級そのハグするとかを超えて食べたいみたいなのがあるから、そういう接触の仕方になったのかな。 話者 1 そうね。 話者 1 じゃあ次の質問に移ります。作ってる時に悩みはどれぐらい意識しましたか？ 話者 2 作ってるとき悩み、 話者 1 なんかもう設計図通りに作るって方に振ってたのもあるだろうし。 話者 2 設計図通りかな。なんか、アンケートに書いた以外の形が特にばんばん思い浮かんできたわけではなかったから、うん設計図で書いたように作るかみたいな感じかな。 話者 1 作ってるときは、これが私の悩みだっていうよりは、どうやって作ろうみたいなハウツーの方にフォーカスをするかんじ？ 話者 2 どっちかっちゃそうかな。 話者 1 物体としてどれぐらい自分の悩みを表現できた思う？満足いく出来だった？ 話者 2 まず設計図通りではあって、悩みの表現としては、8 割ぐらいは表現できてるかなみたいな。 話者 1 なんか、その味とかビジュアルとかを含めて、自分の悩みであるっていうことに一致率が高いほど、このワークショップってうまくいくのかなと思ってて、一致率が低ければ低いほど私が作った練り切りを他者が食べましたみたいになると思うから、今回はみんな割と味を含め、満足度が高かったから自分の悩みとして認知して、他者のもそうであるっていうふうに認知できたっていう可能性があるなっていうふうに思ってるんだよね。何か重なっちゃうんだけど、自分で自分の食べたときは、割とわかりきってるっていうか、確認作業みたいな意味合いが強くて、他人に食べてもらったときは、分け持ってもらうみたいな感覚が強かったっていうお話があったけど、何か他人に食べてもらったときとかで、ちょっと聞きたいかも。 話者 2 なんかね、受け持ってもらったっていうとめちゃくちゃ聞こえがいいけど、なんかこの下のクッションみたいなとこ、ダラダラ玉みたいな、なんか結構負の感じがあるから、食べさしちゃった、まんまと食べてる感、あとは何か食べさせて良かったかな感みたいなその二つかな。 話者 1 なるほどね。それはさ、さっき言ったけど大事なっていうか、悩みが濃い部分を食べさせようみたいなことしてたじゃん。それは結果どういうふうに作用したの？ 話者 2 そうね。悩みが濃い部分。なんかやっぱ悩み相談することがあんまないから、このダラダラ玉のいろんな色の要素を解説してないわけやんか。だから、モヤモヤのまま他者の身体にちょっとおすそ分けというか、預けるみたいな。なん

か自分の中だけでも持ってても、あんまりどうにもならへんけど、他者の胃の中で消化されて何とかなってくれればいいなみたいな。 話者 1 なるほどね。なんて言うのかな。なんか代理出産みたいな。他者の身体の中で、自分の中では消化できないものを消化して排出してもらうみたいな。 話者 2 そうね。そうね。 話者 1 ごめん変なこと言っちゃった。最後の質問なんだけど、今はさ、結構軽めの悩みだし、みんな悩みといえどそこまで悩んではないものだったかもしれないけど、それがもうちょっと大きいものになってくるとさ、1 回作って食べたぐらいではさ、変わんねよって感じかもしれないじゃん。だから、日常の中で強く思ったときにこれを作って食べましょうみたいな、日常生活の中に取り入れましょうっていうふうにしたとしたら、継続的に行っていくと、何かどういう意味を持つと思う？ 話者 2 もうちょっと重めの悩みでってこと？ 話者 1 軽めでもいいんだけど、何か日常的にふと思い出されちゃうような悩みだったとして、その悩みに悩んだときに、やるっていう。 話者 2 どういう意味とか、効果がありそうかなってこと？やっぱ自分で食べるのでは、そこまで解決しなそうかなって思う。やっぱこのワークショップ一番その効果が出るのは、他者に練り切りを見せるみたいなところかなと。例えば自助会とかあるやん。アルコール依存症とかの。同じ悩みを持って、同じじゃなくてもいいけど何らかの悩みを持って定期的に集まってる会で定期的にこのワークショップやるとかならすごい効果あるんじゃないかなと思った。他者が絶対にいるし。 話者 1 なるほどね。確かに確かに確かに。 話者 2 あと何か、刑務所とか、今は刑務作業させて反省させるみたいなもんやけど、何か話し合いをさせてる刑務所もあるらしくて、そういうところでやっても何かが起きそうって思った。 話者 1 確かに刑務作業する人がすごい面白い図だけどめっちゃ確かに。へえ。俺は殺人をしてしまったんだみたいな。 話者 1 そうそうそう 話者 1 おすそ分けするとか共食するパートって最初入れてなくて。でも私は自分の悩みを食べきれなくて、母に押し付けて、美味しいねみたに言われたのが、自分の悩み美味しいんだみたいに思ったのが意外と心軽くなったりして。他人に押し付けようっていうので入れてたんだけど、それが思いもよらぬ方向で他者との関係構築にまで繋がるんですね。面白かった。 話者 1 じゃあ最後に悩みを食べるっていう手法について何か気になったこと、気づいたことあれば。 話者 2 なんか普段の食事よりも明らかに食道とか胃とか腸のことを思った。なんか内側、表面の皮膚じゃなくて、内側でのコミュニケーションみたいなところをすごく強く感じたかな。 話者 1 なるほど。それは、どういう理由からなんだろう。自分の食べるっていうよりは、他人の食べる感覚のときにそれが強く発揮されるのかな。 話者 2 両方かな自分の食べるときも 話者 1 なるほど。それは悩みっていうコンセプトがあるから？ 話者 2 そうかな。 話者 1 自分で作るっていう意味だったらさ、例えば自分が料理するとか、 話者 2 うん。 話者 1 白玉とかだと割と造形できたりするじゃん。 話者 2 はいはい 話者 1 白玉でうさちゃん作ったとき別に胃を意識したりはしないだろうから、 話者 2 悩みはあるかも。感情的なものを食べるみたいな 話者 1 うん。なるほど。ありがとうございます。

【E さん　インタビュー】

話者 1 お待たせしました。 話者 2 はい。 話者 1 まずは実験ありがとうございました。お疲れ様です。質問紙回答からここまで終わってみてのざっくりした感想を聞かせてください。 話者 2 まず一言で楽しかったですね。すごく楽しかった。本当、思ったより楽しかった。なんか悩みを扱うからさ、人の悩みとかを受けてちょっとマイナスに振れるかもとは思ったんだけど、ほとんどなくてそれが。 話者 2 なるほどね 話者 2 私としては特にやっぱりメインが自分との悩みと向き合うよりも交流にあったような感じがする。だから自分で菓子を作るという工程の楽しさとか、そこで考えたこともあったけど、そこで発酵させるとか熟成させるというよりも、その後みんなで食べて感想を言い合ってのパートの方が、何か大きく作用したなと思う。 話者 2 なるほどね。なるほどね。おすそ分けパートみたいなものが結構な意味を持ってたってことだよね。じゃあさ、自分のを食べたときよりも他人に食べさせたときの方が、結構印象は大きいというか思ったことは大きかったりする？ 話者 2 全然大きかった。話者 2 そうなんだ。他人に食べさせたときはどういうふうに思ってたの。話者 2 なんかちょっと気恥ずかしさあるよね。自分を分析されてるっていう気恥ずかしさ。例えば本という形状で包まれて云々かんぬみたいな話があったんだけど、あれ私はとにかく最初はね、本という具象にいろいろ乗っけるというか、それを簡単に表すための手段として本を選んだだけだったんだけど、その本そのものの形状をすごい深読みされて、でもそれが私の悩みの本質とか根源みたいなところにすごい触れてたわけよ。実際開いた悩みではないし、たいして困ってはいないんだけど、でもこれが存在しているという現象には困ってるっていうか、良くはないなと思っているわけで、それを人に聞かせたいというか、人にはその存在をいったん見てほしいみたいなのは、そう思ってたわけじゃないけど、根源的にはそう思ってたはずなのよね。ここに持ってきてるわけだし。っていう特に F さんの分析とかが、言われてみればそうだなって思ったりとか、なるほどそういう解釈もできるんだってお互いの聞いてて思って、 話者 1 うん。 話者 2 自分の作ったのを分析されてる気恥ずかしさと納得感とか、新しく理解できる感じ。それが楽しかった。 話者 1 なるほどね。それはねりきりを食べる段階じゃなくて、見せて見た目からディスカッションしてるときのことなのかなと思ったんだけど、それって例えば粘土とかで自分が作って、見てもらってっていうのでも変わらないじゃん。 話者 2 でもね、私がやってて思ったのは、粘土よりも自由度がちょっと低かったの。多分初めて扱うってのもあるけど、自分がそんなに器用じゃないこともあって、思い通りの造形ドンピシャはやっぱり作れなかったね。 話者 2 難しいよね 話者 2 でもそれに何か例えば他の意味を見いだしてくれたりとか 話者 2 ああ、うねうねだからみたいなのあったよね 話者 2 私もカチッと作りたいけどできなかったから、いっかって妥協して作ったらそこに意味を見いだしてくれて、そうすると自分でうまく作れなかったということに対しても、そういうことにしとこうみたいになって、許容範囲が広がって、自分の。あと言い訳ができる。やっぱ粘土だとさ、ちょっと下手でっていうのにちょっと恥ずかしさあるけど、練りきりだったら難しいもんねってお互いが思えるじゃん。 話者 1 初

めて使うものだったから、みんなが初めてだったからすごい良かったのかもしれないね。話者 2 それあると思う。造形するためのものというよりは、メインは食べるためのものじゃん。 話者 1 確かに。 話者 2 だから、造形がうまくいかなくても自分の気持ち的にも許せる。 話者 1 なるほどなるほど。他人に食べてもらったじゃん。ディスカッションの後。それは何か他人に自分の悩みを分けて取り込んでもらうみたいな気持ちはあったりする？話者 2 悩みを取り込んでもらうというよりは、私の中をのぞき見てもらうみたいな気持ちで、ちょっとだけ裸になる恥ずかしさに似たものがあったかもね。恥ずかしくてんってなる恥ずかしさ。それは自分の手作り料理を食べてもらうときの不安ともちょっと違って、それこさっきも言ったけど、ちょっと薄着になったり裸になったりするような恥ずかしさ、生身を見られる恥ずかしさなのかなって思った。でも嫌じゃなかったよ。 話者 1 なるほどね。自分自身に近いものってことだよね悩みがね、 話者 2 むき出しというか 話者 1 うん。へえ。逆に他人を食べたときはどういうふうに感じた？ 話者 2 何か食べた瞬間よりも、その分析を言葉にすることというか口にすることに、ちょっと、的外れだったら恥ずかしいなみたいな不安は生じたし、あんまりこうでしょって言い切るのわかったような振りで品がないじゃないですか。だからどれぐらい口にしていいかわかんないなというか、多分全員共通してドンピシャで、ダラダラしちゃうからでしょとか、タスク抱えちゃうからでしょっていうのはできなかったじゃん。普通に難しいと思うんだけど、そうじゃなくて、輪郭から触ってく。当たり障りがないようにしつつも頑張って核心に触れようとするていう距離の取り方が面白かった。多分お互いが嫌なところまでは触れられない構造な気がするこれ自体が。話者 1 なるほどね、 話者 2 わかんない。うちのゼミの人ってそういう訓練を受けてるというかさ。 話者 2 わかる、確かに 話者 2 だから、ちょっと悩みをみんなに明かしてみんなで分析してみたいなことやってないコミュニティの人がやったらわからないけど。 話者 1 でも、核心的な事象については、悩みを言わない段階では見た目と味っていう不特定要素からの探りだから、確かに核心をつけないっていう意味で、触れられたくないところまでは触れられないと思うの分析では。ににじり寄ることしかできない。 話者 2 こうかな、こうかなっ言って、でもちょっと踏み込んできたときに、それが外れてても別に自分としては嫌じゃないしなるほどなって思うんだよね。 話者 1 へーみたいな？ 話者 1 本当にへーだった。全然嫌じゃないし、全然かすってなくても、それが新たに自分の理解を深めるってことはなくても、なるほどそういう表現の仕方ってあるよねみたいな。 話者 1 なるほどね。全然違う質問になっちゃうんだけど、普段は悩みとどういうふうに向き合うことが多いとかある？話すことが多いとか、他の料理とかにぶつけることが多いとか。 話者 2 解消法としては話すが一番多いのかなと思って、あとまた気分が悪かったりしたら体を動かしてみるとか、そういうので対処療法的にやることが多い。 話者 1 なるほどね。話してみるっていうことも、割と自分の悩みを他人にわかってもらう工程っていう意味では一緒の気がするんだけど、それと今回はどういうところに違いがあったかな。 話者 2 なんか、普段話すっていうのは、他の人に共有してわかってもらうというよりは、壁打ちに近くて、 話者 1 う

ん 話者 2 自分の中でその理解を深めるために人に話して、それに対して質問とかその人の意見が返ってくるじゃん。その意見を取り入れて解決しようというよりは、その人との差異だったりとかから自分は深くはこう思ってるんだなっていうふうに、自己理解を深めるために人に話してるの。話者 1 なるほどね 話者 2 に対して今回は、わかってもらおうとか、自己理解を深めようという気持ちよりも、みんなに薄く広がってったなというか、 話者 1 はいはいはいはい。 話者 2 なんか何なんだろう。簡単な言い方をするとその悩みがどうでもよくなるじゃないけど、 話者 1 うん、 話者 2 薄く広げるみたいな効果の方が強いかなと思った。だから普段の言葉だったら、すごい細かくもっと細かく自分の状況とか、本当は悩んでないんだけど、でもこういうことがあってもっといっぱい喋っちゃうと思うんだよね 話者 1 確かに。 話者 2 でも食べてもらったから、私がいっぱい喋っちゃう理由は多分ニュアンスをすごい伝えたくなっちゃうんだと思うんだけど、食べてもらったおかげでもうニュアンスは伝わってるだろうから、核心のことだけ言えばいいやっていう気持ちになった。 話者 1 確かにね、みんなあんまりさ、種明かしって言ったら、結構核心をスパンっていったよね 話者 1 多分みんな一言である程度言える感じだったじゃん。だから普段だったらニュアンスを伝えるためにうだうだ言っちゃうことをそこまで言わなくても伝わってるだろうというお互いの信頼感 話者 1 確かに、 話者 2 かつ解決を出してほしいわけじゃないから、このニュアンスまで伝わったなっていうことだけでも 1 個意味があるというか、解決に繋がってて、だから普段人と喋ってその悩みを消化したり解決することよりも、いい感じだったな。何かわだかまりが残る感じがなかった。 話者 1 はいはいはいはいはい。わだかまりっていうのは、何か相手に話して帰ってきたものがそうじゃないんだよなっていうときの？ 話者 2 そうじゃないんだよなときもそうだし、なんか何となく側だけ触ってもらったけど内側に芯残ってるなみたいなことあるじゃない。今回はそうじゃなくて全部がマッサージみたいに解きほぐされて、やわやわってなったから、自分としてもその悩みをゼロにするためにこれやってるんじゃなくてさ、ちょっと形を変えたいなみたいな感じで持ってきたから、喋るだと外側をちょっと削るんだけど、中心までやわやわになった。 話者 1 なるほどね。食べてもらったことでニュアンスが伝わってるっていう感覚になったのはすごい面白い。確かにみんなその核心について、種明かしされて、自分が食べた味をもう 1 回思い返してあーってなってたよね。 話者 2 そうそうそう。よくゼミでも言うけどさ、言葉にするとこぼれ落ちちゃうことってあるよねみたいな悩みを結構うちのゼミの人は共通して持ってると思う。だから言葉以外の五感とかでそれを訴えかけようっていう考え方ってあるじゃん。今回はそれがめっちゃ働いてって、味覚とかで伝わったはずだから、もう細かいことは言うまい。野望はするまいみたいな感じ。 話者 2 蛇足だと、 話者 2 うん。信頼感がだからあった。細かいニュアンスの違いで、いやそうじゃなくてってなっちゃう相談ってあるじゃん。 話者 1 あるある。 話者 2 今回は何かそこまで思わないよね。ニュアンスで伝えててニュアンスでみんな何となくってわかってるから、そうじゃなくてが生まれないし、あと今回のワークショップで良かったのはその悩みはこうしたら解決できるんじゃ

ないみたいな無用なアドバイスが結局なかったわけ。話者 1 確かにね全くそういう方向性にならなかったね。話者 2 それが何か連帯感を生み出すことに繋がっていたような気がする。 話者 1 連帯感っていうのは？ 話者 2 こういう悩みあるよね、確かにこれの意味もあるよねみたいな感じでみんなで痛みじゃないけどさ弱みを共有したわけ。話者 1 はい。話者 2 だから信頼関係が生まれた。 話者 1 さっきの信頼っていうのは、その弱みを共有したことでの仲間意識っていうこともあるけど、伝わってるっていうことへの信頼？ 話者 2 両方ある 話者 1 なるほどね。質問は以上ですありがとうございました。

【F さん　インタビュー】

話者 1 お願いします。 話者 2 始めますお願いします 話者 1 お願いします 話者 2 まずはワークショップ参加完了ありがとうございましたお疲れ様、 話者 1 はい。 話者 2 何かまず質問紙回答から、食べてみて終わったと思うんだけど、ざっくりした全体の感想を聞きたい。話者 1 最初は楽しいのかなっていう、自己理解で終わるのかなって思ってたんだけど、さっきも言ったけど、人の悩みを食べて咀嚼するっていう行為自体がすごい面白くて、他者の心の輪郭とか悩みの輪郭みたいなのを咀嚼することで、自分の中にもってる他者のイメージの解像度が上がるっていうのがすごいこのワークショップ面白かったかなって言うのが一番かな。話者 2 なるほどそれはその言語とかで悩みを聞いてその他者の理解を深めるっていうよりも？ 話者 1 そうだね。言語じゃなくて絶対。言語だったらさっき D さんも言ってたけど、その一義的に全部決まっちゃうじゃん。言葉の輪郭がすごいはっきりしてるから、それを組み合わせたところで、何か本来の何だろう、自分が持っている思っている心の状態っていうところを何か言語では表しきれない部分がねりきりで悩みを食べるだと、解像度が低いおかげか、かゆいところに手が届くっていうか、言語じゃ越えられないところの、何だ輪郭の部分まですごい言語化ができないコミュニケーションみたいなのがあったかなってすごい思ったかな。 話者 2 なるほどね。解像度が低いからこそ、みんなの想像力とかがあったのかな？ 話者 1 そうだねなんか、種明かしする前に考察する時間があったじゃない。そこで何かいろいろ考えることで解像度が高かったらさ考察の余地がないじゃん。解像度が低いおかげで、この人の悩みこうじゃないみたいなのが、なんかぼんやりと自分の中で 1 回あってそれをなんか言語化してコミュニケーションを取ることで、その人の悩みの輪郭を 1 回自分の中で一義的に決定した後で、種明かしてもらううん。それでさらにその輪郭がシュッて何かシャープになって、だからなんか、2 段階構造ですごい人の悩みを捉えることができるっていう。言語だとさもう一義的にあなたの悩みは食べ過ぎなのねとか。あそうで終わっちゃうけど、その悩みのバックグラウンドに、例えば D さんのだったらだらだらしちゃうってなやみでだらだらしちゃうって悩みで、それに対して動けばいいじゃんって言語だったら終わっちゃうと思うんだけど、いや、それわかるっていう。なんなんだろうな。すごい言語化が難しいんだけど、そのバックグラウンドを共有できるみたいな。悩みの根本のバックグラウンドがすごい食べるっていう行為とその考察するって行為、あと

種明かしするっていうこの 3 段階の構図がすごいバランス取れてて面白いなって思ったかな。 話者 2 なるほどね。確かに。あとさ今のお話でこれと違うのかなと思ったのは、何か悩みを言語で話したときに解決策を言ってしまう癖が我々はあるっていうか、何とかなんだよね、なんとかしたらいいじゃんみたいな。このワークショップってその段階が 1 個もなかったよねって話がさっきあって、確かにそれを何でなんだろうとも思ってる。 話者 1 思ってたのがこのワークショップ自体が悩みを食べるっていう行為自体がちょっと狙いはわかんないんだけど、俺が思ってたのはその悩みを解決するっていうことをあんまり目的にしてなくて、悩みをその共有するってところに重きを置いてるのかなと思って、でもだからこそなんかプラスアルファなポイントとして何かもっと味とかはいろいろあった方がもっと面白かったかなと思うんだけど、悩みを共有するっていうところにはすごい長けてるワークショップだったなって思うんだ。 話者 2 なるほど。そのプラスアルファの部分は、味の種類だけじゃなくて、味はもっと単体で甘いが混ざらないものの方が良かったとか？ 話者 1 そうだね。俺の悩みで言うと、何かそのフラストレーションとかは苦い自分で感じて、苦いにしたんだけど、なんか苦いよりもフラストレーションってもっと何か違う味な気がするんだよね。何種類かあったじゃん。そこから選ぶんだと近いかなって思ったんだけど。もっと何か、えぐみとかそっちかなの方が近いかな。 話者 2 難しいそれ 話者 1 でもそれはちょっとプラスアルファなポイントってだけで、全然この苦いでもすごい表現としては、全然補完できてたからいいんだけど、でもどこまで解像度を求めるかによって違うと思うんだけ、どさっきやったグループワークの中では、苦いのコーヒーでもよかったかなって思う。ただそのさっきなんか若干あったけど、前のグループだと全然違ったみたいな感じだったじゃん。だからその人の悩みっていう多分 6 種類の味ではまだ表現しきれないよなってのは正直思って、そこもうちょっとあった方が面白かったかなと思う。 話者 2 そうだね。何か味覚ってでも一応さ、旨味も入れて 5 種類？みたいなやつは網羅してて、でも辛いって意外といろんな味あるよなとか。ていうか作れるものから選んでるみたいなところはあるんだけど。そうだね、もうちょっといろんな味があるといいのかもしれないね。 話者 1 の方がグラデーションが広がるというか、悩みの捉えられる輪郭が今って 6 種類だから簡単に言うと六角形の輪郭を捉えられるみたいな。10 種類とかだったらもう少し円に近づくようになるのかなって一瞬思った。 話者 2 でもそれはね結構私もおもう。もう 1 個聞きたいのはさ、結果さ、美味しかったじゃん。 話者 1 結果美味しかった。 話者 2 結果美味しいのはどうなの？悩みとしては。 話者 1 悩みとして美味しいって何か、どうなんだろう。今回のワークショップで言うと、ちょっとモヤモヤが残った部分ではあったのね。その自分の悩みを最初に食べたときに、なんか意外と美味しかったっていうのはちょっとモヤって一瞬思ったんだけど、なんかもうまずい方がいい、悩みだったら何かまずい方がいいって思うんだけど、どうだろうね。 話者 2 他人に食べさせて、すっごいまずいみたいなこと言われる方がいいのかな？なんか私も最初はさ、美味しくない方がいいのかなみたいな思ったんだけど、自分の体験として、悩みを作ったときに食べきれなくて、それを母に食べさせて、

意外と美味しいねみたいに言われたのが、自分の悩み他人からだと美味しいんだみたいな認識もあったんだよね。 話者 1 あー。自分でもさっきのワークショップで実際にあって。自分の悩みを食べてもらって、結局みんな全部美味しかったじゃん。なんかそこはちょっと違和感はあったかな。何だろうな、悩みの形だったりとか色だったりとかはふに落ちるところは結構あったんだけど、味って部分で言うと、なんかもう少し工夫あってもいいのかなっては思った。でも普通に全体的に完成度高いワークショップだと思うから。 話者 2 ありありがとうございます。何より。 話者 1 このワークショップ、本当に人の悩みに共感するみたいなコミュニケーションの一環として食ってところにフォーカス当ててんのはすごい面白いなっていうのが率直な感想で、今までって大学とか入っても高校までもそうだけど、なんか本当に地元の本当に幼なじみとかじゃないと、何か言語以外の身体的コミュニケーションとか、同じ地元の人としか精神的コミュニケーションとかなかったんだけど、本当に言語的コミュニケーションが主で、大学でも本当に言語的な論理的なコミュニケーションが主だったんだけど、すごい感受性豊かなコミュニケーションだなと思って、練り切りで食べて会話して、他者理解を進めるみたいなのは。だからすごい人に対して優しいコミュニケーションだなって思った。 話者 2 なるほどね。それは、どういうところが？ 話者 1 言語のコミュニケーションだと、自分は男性です野球が好きですとか、映像作りが好きですとか、なんかそれで一義的に決まっちゃうじゃん。でも悩みとか色とかで表現すると、その人に対して考察の余地が生まれるみたいな 話者 2 うんうん、 話者 1 色としてはしっかりあるんだけど、その周りの半径例えば数センチの間にちょっとグラデーションが生まれてって、そこにこの人こうなのかなっていう言葉の、そこで何か、食のコミュニケーションに介入できる余地があるのが。なるほどね。言語だと輪郭がはっきりしてるじゃん。黒だったら黒なんだけど、そうじゃなくて、これってやったら黒じゃなくて黒の周りに今影があってみたいな感じの、視覚的にも、あとは味覚的にも味わえるっていう。 話者 2 なるほどね。輪郭がぼやけてるからこそ、そこに想像する余地があるっていうか、介入の余地が生まれるっていうことなのかな。 話者 1 うん、そう。五感じゃないけど、味覚と視覚か、触覚もそうか。三つの感覚でやり取りできるコミュニケーション一つなのかなって思ったかな。 話者 2 なんかこれって粘土でもいいじゃんっていう反論がもしかしたらあるのかなって思ってたんだけど、味覚っていう意味ではそうじゃないのかな？ 話者 1 粘土じゃ駄目だと思う。食べるってところにすごいもっと重きが、これが置かれてるなと思ってて。他者理解を進める上で造形的にわかればいいじゃんってなったらそれは美術でいいじゃんって思ってて、なんかその何だろうな、他者の具現化した悩みを自分の中に落とし込む。食べて落とし込んで咀嚼して考えるってところが、この食べるじゃないとうまくできないんじゃないかなと思ってて。食べるって行為ってすごい人の本質的な行為だと思ってて。 話者 2 うん、そうだね、話者 2 その本能的に、相手が作った何かを食べて理解するっていうところが、しかもこの悩みってすごいベクトルがいろんなところに向いていて、その人の悩みって絶対わかんないじゃん。一義的にはわからない悩みを、その人が作ってそれを自分が食べるってところは

すごいなんか本能的本質的にすごい、何だろう食べるってところに意味があるのかなって思うから、粘土じゃ駄目だと思う。 話者 2 なるほど。いやでも私もそう思って作ってたからすごい嬉しいんだけど。今回のワークショップの中で、自分の悩みを他人に食べてもらうみたいな瞬間とかあったじゃん。どういうふうに感じた？自分の悩みが他人の中に取り込まれたっていう気持ちとかはあった？ 話者 1 何か、取り込まれたっていう気持ちは正直、薄い。いやあったんだけど薄くて、なんかその後のディスカッションで、咀嚼されてるなっていうのはあったかな。取り込まれてるんじゃなくて、何か解析されてるみたいな。 話者 2 なるほどね。 話者 1 その他者の一部になるんじゃなくて、他者の認識の中の 1 データみたいになってるのかなとは感じたかな。 話者 2 それは食べて味わって、この味はこういうことだったのかみたいな感じ？ 話者 1 そうそう、何かこの形はそういうことかみたいな感じで、その人の体の一部になるっていうよりは、その人が持ってる自分っていうイメージ概念の中の色付けの一部になった感じ。その人が持ってる自分のイメージがあって、それは元々言語理解の中で、言語コミュニケーション中で作られた自分っていう像で、食べるっていう行為によってそこに何かちょっと色づきができた感じかな。簡単に言うと。 話者 2 相手の中での自己イメージがちょっと鮮明になっただろうなみたいな？ 話者 1 そうそうそう思ったのが、俺も D さんと E さんの何か、D さんだったらぐだっとしてるとか、E さんだと部屋が汚いとかっていうのが、言語コミュニケーションの中じゃなかなか出てこないし、想像もなかなかできないじゃん。家が汚いって言ったらさなんか、ゴミ屋敷なのか、何かそれとも散らかってるのか、鼻かんだティッシュが散乱してるとか、家でぐだっとしてるっていうのも、ヨギボーの上でぐだっとしてんのかなとか、ベッドの中から動かないのかなみたいな。わかんないけど、なんか自分で作ってもらった造形物を返してだとすごいなんか、解像度が上がったよね。 話者 2 なるほどね。 話者 1 だから、言語伝えきれないその微妙な余白の部分をダイレクトに伝えることができる。ただ、言語的に一義的に決まるんじゃなくてある程度の輪郭がぼやけてる中で、伝えられる。 話者 2 それは味もあるし、色もあるし、形もあるってこと？そう。 話者 2 そう。そこは三つかな、三つが合わさって伝えられるっていう。 話者 2 なるほどね。逆にたく F さんが相手のを食べたときは、自分の中に他人の悩みのの要素が入ってきたっていうよりは、こういう味の悩みなんだみたいに分析してたってこと？ 話者 1 その方が近いかな。D さんっていう元から持ってた人物像の中に対して入ってきた感じ。元から持ってた D さんとか E さんっていう人物像の中に、この悩みを食べるってことによって、そのデータが蓄積されたって感じ。だから何か自分に取り込んだっていうよりは、自分の中で持っているその他者のイメージの中のデータとして取り込んだって感じの方が近いかな。 話者 2 なるほどね。他者のイメージの解像度がちょっと上がるみたいな感じだったのかな。へえ。面白いねね 話者 1 面白かったよ。 話者 1 なんかちょっとゲーマスみたいな立ち位置でいたからさ、私も参加して仲良くなりたかった。ちょっとなんか残念。 話者 1 結構本当に面白かった。 話者 2 へえ。それはさ、他人に対してのそのイメージ理解にもつながって、さっきの他のインタビューの中で、一体感とか連帯感

とか信頼が生まれたみたいなことがあったんだけど、その他人のイメージが鮮明になることで、どういった気持ちになったの？ 話者 1 なんだろう、なんか単純にすごいダイレクトに思ったのは、何かもっと深く知りたいなって思ったの。2 人を。 話者 2 なるほどね。 話者 1 だからすごいこの他者の表層理解ところで言うとこの悩みを食べるってすごい面白いなと思ってて、なんかその深いところのコミュニケーションに行く前の一歩手前の段階のコミュニケーションとしてすごい面白いって思った。その率直に思ったのはね。 話者 2 なるほど。なるほどそんなに深いところではなかったっていうこと？ 話者 1 悩み自体が、今回その人に言える悩みっていうところが、一応線引きであったじゃん。フィルターで。だったからかもしれないんだけど、もしかすると、人に言えない悩みを具現化してくださいだったら、もっと深い理解に行ったかもしれないんだけど、今回のワークショップで俺が感じたのはその表層理解の部分ですごいなって思った。逆に、これからさらに発展して今度人に言えない悩みを作ってくださいだったら深い理解に繋がるかもしれない。その余地は全然あるなと思った。 話者 2 人に言えない悩みを作ってくださいってしたらどうなるんだろうね。話者 1 でもどうなるかな、なんかそれを他者に食べさせるってところに俺だったら 1 回多分抵抗感がある。今回はあんまりそこまでの抵抗感は生まれなかったんだけど、もっと深い悩みを作って、それを他者に食べさせてくださいってなったら、だいぶ抵抗感ある。 話者 2 ありそうだよね。ありそうだし、種明かしができないっていう 話者 1 言いたくないってなっちゃうよね 話者 2 なるほど。すごいそのいい具合の、他人に言える悩みぐらいの深さの理解にはすごくよかったってことだよね。 話者 2 よごくよかった 話者 2 なるほど。ありがとうございます 話者 1 美味しかったしね 話者 2 美味しかったしね。最後の質問になるんだけど、例えばこれを 1 回ポッキリじゃなくて日常の中でその悩みにぶち当たったときに、継続的にやりましょうみたいな話になったとして、なんかそれはどういう効果を持つとかどういった意味を持ってくると思いますか？ 話者 1 継続的か。なんか、継続的にやるならその対象によると思っていて。例えば何か飲み込めていない悩みっていうところに限定するんだったら、すごい効果はあると思うのね。解決できない悩みかな。解決できない悩みに対してはすごい効果があるものだと思っていて。逆に解決できる悩みに対してはあんまり効果ないのかなと思う。例えば何か自分の中ですぐ解決できる悩み、例えば今冷蔵庫に全然野菜が入ってないから買いに行こうみたいな。それを悩みしてやるみたいなことはあんまり意味なくて、本当に解決したいけど、モヤモヤしてて、自分の中で解決策はないか、あっても解決したいって思ってなくて、それか、もしくは解決策がわかっていない悩みに対してはすごい有効な手段だと思う。逆に解決策もわかってるし、もう自分の中でアドバイスができる悩みに対してはあんまり意味がないのかなって思った。悩みの輪郭が自分の中でぼやぼやしてる状態とか、わかってるんだけど、実行できない悩みの 2 種類の悩みに対してすごい効果があるかなと思った。 話者 2 それは 1 人で、日常的にやるっていうことでも効果がある？ 話者 11 人で日常的に。やっぱりそこはちょっと難しいところではあって、その他者に食べてもらうっていう行為に結構この悩みを食べるってすごい比重が大きくて、

自分で作った悩みを消化するってところでいうと、効果は薄れちゃうのかなって思ってる。最初に食べたじゃない、自分で。あのときに、自分の悩みだって一瞬思ったんだけど、それよりも 2 人が考察してくれてたときの方が、すごい自分の悩みの輪郭がすごいわかったから、何か他者がいて、やってもらった方が効果的で、自分だけだと効果は半減するなって思う。 話者 2 なるほどなるほど。他者にもやってもらうっていう形式で、同じやつを何度もやることで変わってくることとかあると思う？特に悩みの形とかさ、変わってくるのか？話者 1 悩みの形は変わると思う。今は 1 回だけだけど、自分が持ってた悩みの輪郭がちょっと変わった気がするのね。すごい簡単に抽象化して、具体化して言うと、元々自分が持ってた悩みの輪郭って周りにトゲトゲしてた感じの輪郭だったのよ。それのトゲが下がったなっていう気持ちがあった。だからどんどんやることで、とげが完全になくなっていくのかもしれない。そう考えたのが、俺の場合はその悩みを共有することでそのときがどんどんちっちゃくなる可能性があるからなのかなって思った。自分の悩みが、タスクをいっぱい抱えちゃってイライラしちゃうっていう内向的な悩みで、そのとげが、もうタスクをいっぱい持ってるから自分に関わらないでっていう気持ちの表れだったから、それをあえて共有することで、こいつ今こういう感じだからしょうがないよねっていう、相手からの理解が深まることでそのとげがどんどん取れていくみたいな感じかな。何か悩みの形は何回いろんな相手の悩みを食べて咀嚼することで変わっていくのかなとすごい思った。 話者 2 へえ。そうだね確かに。どんどん違う形になっていくのか。食べるってさ、賞味期限があったりするから、作ってすぐ食べなきゃいけないじゃん。だから次に作るときにもうそれはない。だからこそ、今この瞬間、一刻一刻と変わっていく悩みを捉えるみたいなことができるのかな？話者 1 そうだね、悩みもさ、賞味期限があると思ってて、なんか、多分ずっと本当に何十年も持ってる悩みってあんまりなくて、いずれ悩みってなくなると思ってて、その今の仕事をため込まないとフラストレーションが溜まるっていう悩みも、なんか逆にどんどん仕事を溜めていって、もう究極的に自分がもうこれ以上やったら死んじゃうみたいなところまでいったら、それ悩みじゃなくなると思うんだよね。この現時点の悩みを具現化するってところにすごい意味があるなって思った 話者 2 なるほどね。 話者 1 悩みの賞味期限みたいなところを何か 1 回冷凍保存しておけるみたいな。 話者 2 うん 話者 1 それをみんなに解凍して分けることで消化するみたいな、悩みの理解が進むみたいな。ちょっと言語化が難しいんだけど。 話者 1 いやでもわかる気がする。なるほど面白かった。質問は以上になります。ありがとうございます。